

第1号議案

2022年度事業報告

I. 2022年度支部通常総会

新型コロナウイルス感染症感染拡大の状況に鑑み2022年5月18日(水)、事前書面審議及びzoomによるオンライン配信形式での開催となった。期限までに提出された審議回答を常任幹事会で集計し、各議案の審議結果を確認し審議を行うこととした。支部規約第9条(支部正会員の10分の1)に基づき定足数の確認後、下記の議案の審議が行われ、原案通り承認した。

議案1. 2021年度事業報告承認の件

議案2. 2021年度収支決算承認の件

議案3. 支部役員及び支部監査選任の件

総会終了後、「知的生産者支援機構の目指す方向性と実施される一号案件について」をテーマに会員集会をオンライン配信にて実施し、懇親会は中止とした。

II. 役員会関連報告

1. 役員会・常任幹事会(幹事長:中澤克秀)

全4回の役員会、全8回の常任幹事会とも、昨年より始めたリモート形式を継続し、距離や時間の問題を解決し得るこの新しい環境で、参加者もだいたい慣れた感じで、コロナ過を過ごすことが出来ました。2022年総会・会員集会では、ハイブリット方式の未来を予測される、建築家会館大ホール会場からの配信となりました。

今年度は3年ぶりにJIA建築家大会2022沖縄が開催されるという事で、第1回役員会を短縮し、その後「新会員の集い」を開催いたしました。こちらも3年ぶりとなり、新会員の参加者には、沖縄大会の交通費の補助が出るという事で、学生会員も含めた総勢11名の発表、同時に新協力会員を含む協力企業7社の発表もあり、オンラインならではの参加人数となり、新しい形での会員と協力会員を結ぶことが出来ました。この流れで、沖縄大会には支部から多数が参加し、大いに盛り上がりました。

また、こちらも3年ぶりとなる2023年「新春の集い」もオンラインにより開催することが出来ました。テーマ「JIAの活性化と建築家資格制度について考える」として前半に基調講演「建築士法の成り立ちとその目的」(速水日大教授)を行い、後半のグループに分かれたセッションでは、あらかじめ決めた3つのテーマに、参加者が希望する部屋に分かれての、新しい試みのブレイクアウトルームを採用しました。テーマを絞る事で、各部屋でかなり活発に意見交換ができたと考えています。

最後に幹事長としての常任幹事会の運営は、スラックを使い、綿密な意見交換と準備をしても、毎回3時間を超える会議となり、常任幹事会のメンバーには大変な労力を強いる事になり、議長、運営の難しさを痛感しました。そうした中でも、細かいところまで議論す

ることで後回しにしないという姿勢が常任幹事会内で共有されていた事は、何よりもうれしく感じています。また、12月の常任幹事会は、前支部長の慶野氏のおひざ元の栃木に出向き、一泊での会議、翌日の建築見学会が行われました。このコロナ過でのコミュニケーション不足を補うに、改めてひざを突き合わせて夜遅くまで議論する事の大切さも実感した次第です。2023年度は、脱コロナでのリアルの交流とオンラインの併用、さらなる進化した会議方式が生まれそうな予感がします。

2. 委員長、地域サミット合同会議(副支部長:田口知子)

今年も前年に続きコロナ禍により、オンラインでの開催となりましたが、第一部に報告発表を行い、第二部にグループディスカッションを行う、という形式はオンラインならではのメリットがあり、定着してきた感があります。この合同会議が、各委員会、地域会を相互につなぐ情報交換の場であり、交流と議論の場として皆様にとって有意義な時間となるよう努めております。

本年度は、2022年7月と2023年3月に、全2回の合同会議を開催しました。一回目の会議では、委員長・地域会代表に加え、部会長の皆様にも参加いただき、活動報告、およびディスカッションをいただきました。2回目は、委員長・地域会代表が集い、本部の紹介、地域会活動の報告とともに、5つのテーマに分かれたグループディスカッションを行いました。参加いただいた皆様のご協力で活発な意見交換が行われ、有意義な議論が展開されました。

内容については、支部ホームページのほうにも掲載しています。

1) 第1回委員長・地域サミット・部会長合同会(2022/7/22 オンライン開催)

■第一部

1. 関東甲信越支部 新支部長挨拶

活動基本方針(渡邊支部長)

2. JIA連携組織説明図によるJIA全体像の説明と課題(上垣内副支部長)

3. 活動報告

- ①けんばいWG/②千葉地域会/③渋谷地域会
- ④城東地域会/⑤広報委員会/⑥建築・まちづくり委員会/⑦環境委員会/⑧交流委員会/⑨アーバントリップ実行委員会/⑩住宅部会/⑪都市デザイン部会/⑫デザイン部会/⑬空間ワークショップフォーラム/⑭学生の会@joint

■第二部 グループディスカッション

テーマ:国民が設計の専門家(建築家)に安心して仕事を任せられるようにするため建築家の役割や存在価値を社会に発信する

2) 第2回委員長・地域サミット合同会議

(2023/03/24 オンライン開催)

テーマ「頼りになる建築家・頼りになる JIA に向けて」

■第一部：報告

I) JIA 本部の活動紹介

1. ウェブサイト更新と建築家PR動画
2. 会員データベース構築
3. 建築家資格制度について

II) 委員会・地域会の活動報告

- ① 保存問題委員会・目黒地域会／
- ② 北関東甲信越学生課題設計コンクール／
- ③ 渋谷地域会／④ 港地域会／⑤ 中野地域会

■第二部：グループセッション

5つのテーマのグループに分かれ、ディスカッションを行いました。テーマは以下のとおり。

1. JIA の社会への発信
2. 行政との関係構築に向けて
3. 若手・学生支援を考える
4. 建築家資格制度を考える
5. 地域会活動のこれからを考える

Ⅲ. 委員会活動報告

1. 総務委員会 (委員長：鈴木弘樹)

2020 年度の活動に大きく影響を及ぼした新型コロナウイルス (COVID-19) 感染拡大は、3 年目になり今年度も活動に対して大きく影響を及ぼした。しかしその状況も 3 年目になるため、その間に多く実施されたオンライン形式の会議を活用し、各種会議やイベントを実施した。以下活動内容を報告する。

■会員集会・新会員の集い・新春の集いについて

対面の会員集会・新会員の集い・新春の集いは、実施できなかったが、以下のようにオンラインで実施した。

■会員集会は、2022 年 5 月 18 日に実施した関東甲信越支部総会後実施した。会員集会の来賓として日本建築家協会会長六鹿正治氏と日本建築家協会次期会長佐藤尚巳氏をお招きし実施した。六鹿正治氏には「JIA 会長としてこれまで取り組んできたことと。今後の期待」と題してお話しをいただき、佐藤尚巳氏「JIA の更なる発展としての抱負」と題してお話しをいただいた。その後、2022 年 6 月に退任した日本建築家協会関東甲信越支部長慶野正司氏に支部長として活動された期間を振り返り、また、今後、関東甲信越に対する期待も含め、話題提供として「JIA 関東甲信越支部長としてこれまで取り組んできたことと。今後の期待」と題してお話しをいただいた。その後、話題提供として、JIA が支援している知的生産者選定支援機構の上浪寛氏と鈴木弘樹から「知的生産者支援機構の目指す方向性と実施された一号案件について」と題して話題提供を行った。最後に今年度 JIA の全国大会が対面で実施されることから、JIA 建築家大会 2021 沖縄の紹介を沖縄支部長伊良波朝義氏から紹介いただいた。

■新会員の集いは、2022 年 9 月 16 日に実施した役員

会後実施した。新会員の集いは、主に新会員と会員、新会員間の交流、JIA の活動の紹介と JIA 建築家賠償責任保険 (ケンバイ) の紹介などの目的で実施しており、例年、全国大会は新会員に参加補助が出るため、全国大会前に他のイベントと共同開催で、年 1 回実施していた。2020 年、2021 年は、全国大会が実施できなかったことから、新会員の集いは実施しなかったが、今年度は、JIA 建築家大会 2022 沖縄が 10 月 20 日から 22 日に開催されることから、過去実施できなかった方々も含めお声がけした。冒頭に伊良波沖繩支部長から JIA 建築家大会 2022 沖縄の案内をしてもらい、その後新会員 6 名から自己紹介を兼ねて自身の作品などを紹介いただいた。次に学生会員から学生の会@joint の紹介をいただき、新協力会員など 7 社から会社の紹介などを発表してもらった。発表や質疑応答を通して新会員や新協力会員、学生会員と会員との交流がはかれ、参加した方々からも好評であった。また、2 年間実施できなかった新会員の集いが実施できたことは大変意義深かった。

■新春の集いは、2023 年 1 月 13 日に実施した。冒頭に渡邊大海関東甲信越支部長、佐藤尚巳会長から新春の挨拶をいただき、続いて第 1 部では、「JIA の活性化と建築家資格制度について考える」をテーマに、以下のプログラムで開催された。テーマ 1) 「建築家資格制度を考える」として、日本大学教授 速水清孝氏による基調講演「建築士法の成り立ちとその目的」を行った。続いて、常任幹事の安川智氏による「資格制度をめぐる歴史」の話題提供であった。続いて、テーマ 2) 「JIA 活動の活性化に向けて」として、オンライン特別委員会委員長奥野美樹氏より、JIA 会員支援の取り組みについて話題提供であった。第 2 部は「新春の集い」グループディスカッションを行った。3 つのテーマで、6 つの部屋分かれてグループディスカッションを行った。テーマは、建築家資格制度を考える部屋。JIA 活動の活性化・社会への発信を考える部屋。会員交流を楽しむ・交流の在り方考える部屋とし、各部屋とも 7-9 名程度でそれぞれの部屋で自由に活発な意見交換が行われた。

■予算収支計画 (予算編成)

昨年度から実施している委員会、地域会に対する事業計画案及び予算案の資料提出を今年度も実施し、予算の編成に活用した。作成いただいた皆様には、ご尽力いただき感謝申し上げます。予算案は、例年の懸案事項である会員減少による収入減 (100 万から 150 万円程度/年) を反映し、原則事業計画案及び予算案を反映したが、一部内容についてヒアリングを行い、一部事業計画案及び予算案を修正し計上した。例年の課題であるが、自然減や会員減による収入の減少がある。来年度の予算もそれを反映せざるを得ない状況で、抜本的対策は今後の課題である。活動基盤に直結する費用の削減は苦渋の選択であるが、関係各位においてはこれ

までの多様な活動の維持・発展にご尽力いただきたい。

■その他の委員会活動と関連した主な行事について
今年度の委員会の活動（毎月委員会開催）

- ・JIA 入会審査
- ・規則、規約などの改定検討
- ・若手会員向けのベテラン会員相談室の活性化（Web形式の検討）
- ・JIA25 年賞の支部推薦の選出
- ・委員会の委員公募 など

関連行事

- ・5月18日：2022年度 JIA 関東甲信越支部通常総会・会員集会（常任幹事は 建築家会館本館ホールにて対面で映像配信、会員 WEB 会議）
- ・7月22日：委員長・地域サミット合同会議（WEB会議）
- ・1月13日：新春の集いWEB 会議）
- ・3月24日：委員長・地域サミット合同会議（WEB 会議）など

2. 広報委員会（委員長：市村宏文）

2022年度は、昨年度に引き続き全てオンラインで委員会を開催しました。状況を見ながら3ヶ月毎の対面開催も試みましたが実現できませんでした。その中で Bulletin の取材は対面が多くなり、これまでの様に取材先に伺いその場の雰囲気を感じながら話が聞けました。昨年度から活動を始めた「学生の会@joint」ですが、10月に開催された建築家大会沖縄に5名の学生会員（@joint のメンバー）が参加し、全国の各支部の会員に紹介をいたしました。当支部の@joint の活動に多くの賛同があり、今後は各支部の学生会員との繋がりをつくる地盤が整いました。今年度も交流委員会から委員長、法人協力会員と広報部会員の参加があり、密に連携をとりながら、オンラインセミナーのメルマガ配信等の広報に協力をいたしました。

今年度の主な活動をご報告いたします。

- ・毎月1回の委員会開催、Bulletin 編集ワーキング、HP ワーキングもそれぞれで月1回開催しています。現在は全委員が2つのワーキングに参加しています。
- ・会報誌 Bulletin の発刊。年間テーマとして、その特集を中心とした紙面構成を中心として、いくつかの連載を掲載とあわせて読み応えある内容としました。
- ・支部サイト運用。毎月の委員会で運用状況を確認し、活用が出来ていない委員会・地域会等に積極的に活用するように案内をいたしました。サイト上での活動報告も充実してきました。改訂して5年目となる本年度は、サイトのプチリニューアルを実施しました。
- ・一般向けのメルマガ配信。Bulletin 発刊の1ヶ月後に配信して、内容も Bulletin の掲載記事を中心としています。
- ・前年度より外部サイトの「LUFTA（ルフタ）」との連携をしていますが、学生の会@joint と活動の連携も

見据えて、@joint 紹介ページを公開しています。

・学生の会@joint の協力。Bulletin に学生の会のページを設け、誌面の企画を任せています。定例会、交流会に正会員の委員も参加して、活動のアドバイスや意見交換をしています。

3. 建築相談委員会（委員長：小島孝豊）

関東甲信越支部内では、首都圏・神奈川・千葉・埼玉・新潟の各地域会が、一般市民のための身近な建築相談窓口（無料相談）を設けて活動をしております。事前に予約をしていただき、住まいづくりの進め方・選び方、建築家への依頼方法、工務店や設計者とのトラブル、マンションの修繕など、住まいについて多岐にわたった相談をボランティアで行っています。但し、相談者が居住していない業務用建物や、設計者・建設業者・不動産業者・建材業者、また弁護士など業務上の専門家からの相談は対象外としております。相談内容の多くが取得した後の不具合、欠陥相談が多い。建築相談室にとって永年の懸案事項でありましたが、不具合・欠陥住宅に遭わないための、建てる前（あるいは購入前）の相談をもっと増やせないか、ということからHP検討WGを立上げ、事前相談にもっと関心を持っていただきたい

と建築相談室のホームページを改定しました。

2022年度はコロナ禍の終息が伝わりはじめたことに従い、昨年末より対面相談を月一回もうけたりして徐々に相談件数が増えてきております。来年度は、もっとふえていくと思われま。

本年度の相談件数は下記の通りです。

（ ）の数字は昨年度の数字です。

相談室	事前相談	一般相談	トラブル相談	相談件数	現地調査数
首都圏	4(9)	11(0)	47(42)	62(51)	13(5)
神奈川	2(0)	1(1)	6(9)	9(10)	0(0)
千葉	0(0)	0(0)	9(2)	9(2)	0(0)
埼玉	2(9)	0(4)	43(34)	45(47)	0(0)
新潟	0(0)	0(0)	2(1)	2(1)	1(1)
合計	8(18)	12(5)	107(88)	127(111)	14(6)

○委員会の活動

- ・JIA 建築相談会議では、来年度秋に予定されている名古屋大会でこれまでコロナ禍で中断されていた全国会議を開催したいと考えております。
- ・(公財)住宅リフォーム紛争処理支援センターおよび東京都消費生活総合センターとは建築相談の連携協力を継続しています。
- 研修WG・セミナーWGと合同で、来年度の開催を企画していきたい。

4. 保存問題委員会（委員長：太田安則）

保存問題委員会では、『保存は未来への創造である』—“保存”と“創造”とは同義である—と考えており、

持続可能な都市環境の形成を主題としてとらえ、活動しています。

何層にも重なった都市の基層を時代の変化として受け入れ、文化財と景観を守り歴史的変遷を残すことが、今に生きる証でもあります。

昨今、JIA 会員の建築に関して、JIA 会員が更新に取り組む場面が多く見られ、取り壊しを契機に提起される保存問題が、何をわれわれに問いかけているのかを見つめなおす状況が増えています。

2022 年保存問題委員会では、旧豊多摩監獄表門要望書提出後の動向や、二宮街の旧吉田五十八邸解体後の移築先や、根岸競馬場一等馬見所の動向を見守っています。東京海上ビル本館建替えに対し建築まちづくり委員会や都市まちづくり委員会と合同見学会を開催し、事業者が調査している本館の価値継承作業と並行して、定期的に意見交換し新たな開発に反映されてゆく経過を学んでいます。また、旧九段会館保存活用の見学会や藤岡洋保氏を招いた勉強会を開催したり、JIA 保存再生会議との情報交換等を行いました。

要望書としては、世田谷地域会と旧林愛作邸の保存活用、城南地域会と御料車庫の保存活用、長野地域会と旧更埴市庁舎保存活用、目黒地域会と目黒区美術館の保存活用を提出いたしました。

建築は社会の〈ソーシャルコミュニティ〉の形成基盤です。時代と共に生き続けるため社会に何を残し伝えるか、技術や文化の継承でどう再生するかなど、広く地域会や建築まちづくり委員会・都市まちづくり委員会等と話し合いや協力のもと、JIA 保存問題委員会としての行動に繋げたい。

5. 苦情対応委員会（委員長：板橋弘和）

苦情対応委員会は、建築主や一般市民からの本会会員の業務に関する苦情に対応する組織であり、苦情申し立てに応じる形で活動してまいりました。委員会は、総務委員会委員長、建築相談委員会委員長、住宅部会長を含む専門的知見をもった、7 名の委員で構成されていきました。

今年度の苦情は、1 件が近畿支部への苦情申立についての協力でした。申立人が東京に在住であったため、近畿支部からの要請により、申立人のヒアリングを関東甲信越支部で行い、被申立人のヒアリングを近畿支部で行った後、リモート会議によって意見交換を行いました。他支部との協力によって苦情対応を行うというのは、新しい取り組みであり、リモート会議が普及した現在において、今後増える可能性があるものと思われまます。

もう 1 件の苦情申立は、申立人に対するヒアリングにおいて、被申立人の対応に明らかに問題がありそうな案件でしたが、その後の調査により、被申立人が苦情対象業務を行っていた時は JIA の会員であったものの、当支部への苦情申立があった時点において、既に JIA を退会していたことがわかり、結果として被申立人に

対するヒアリング等、その後の対応を行うことが出来ず、JIA 会員を対象とした苦情対応の限界を感じました。今後は、委員の増加や苦情対応の知見の継承について検討が必要と考えています。

6. 支部建築家資格制度実務委員会（委員長：宮島亨）

当委員会は登録建築家の資格認定及び登録を行う「建築家認定評議会」及び直接的に認定評議会を補佐する本部登録建築家資格制度実務委員会の補佐をその役割としております。

具体的には、登録建築家の新規申請、更新申請、再登録申請の書類審査を行い、建築家認定評議会に審査書類を提出しております。

2022 年度は実績評価による新規登録者 36 名、更新者 177 名、再登録者 14 名が建築家認定評議会の審査に合格いたしました。

今年度も昨年と同様、オンラインにより認定評議会が行われました。認定評議会の評議員は 7 名で構成され、その過半数は弁護士や消費者団体など建築関係者以外の方で構成されています。今年度は報告として、本部の資格制度実務委員会より、登録建築家を応募資格の代替とした愛知県西尾市の西尾市生涯学習センター（仮称）設計者選定設計競技の紹介がされました。これは応募資格の、日本国内の公共建築設計にかかる実績を有すること、という条件の代替として登録建築家または統括設計専攻建築士（公益社団法人日本建築士会連合会）を管理技術者もしくは意匠技術者として配置することを同等としている事例です。

このような事例に対し、期待された責任を果たし、結果を積み重ねることで、登録建築家が社会に認知され、信頼される資格制度となることが重要です。

7. 都市・まちづくり委員会（委員長：近藤崇）

当委員会は、魅力的な「都市・まち」を創るためには建築分野と土木分野の協働が重要である、という認識に立ち、JCCA（建設コンサルタンツ協会）との協働を軸に活動しています。今年度も JCCA の専門委員会である「土木・建築連携まちづくり専門委員会」メンバーを当委員会委員に招き、両委員会が連携しながら活動を進めています。

建築と土木の協働を様々な視点から探る JCCA×JIA 協働シンポジウムは、2023 年 3 月 18 日に第 15 回目を開催しました。第 14 回に続きメインテーマは「土木と建築の協働、その可能性を探る」、そして今回のサブテーマは「Around40 が考える土木と建築の協働とその未来」としました。第 14 回にも登壇頂いた都市設計家の小野寺康氏がコーディネーター役を務め、土木と建築の両分野から今後さらなる活躍が期待される Around40 世代の設計者を招き、今後の「都市・まち」の在り方、その「都市・まち」づくりへの関わり方などについて議論しました。登壇頂いたのは都市設計家の上條慎司氏と建築家の橋本尚樹氏。さらに JCCA と JIA の両委員

会からも若手設計者が加わり、議論を深めました。そもそも両分野の境界を意識せず横断的に思考しなければ魅力的な空間は実現できないことを確認し、実際に両分野の設計者の有効な協働（コラボレーション）によって生み出される空間の魅力を実感することができました。

日常の委員会活動は、オンラインから、対面+オンラインによるハイブリッド開催に移行しています。直接のコミュニケーションが魅力の対面形式と、気軽に参加できるオンライン形式、双方のメリットを生かす開催方法と感じています。その中でゲストを招く勉強会（ゲストトーク）も再開し、今年度は日本大学理工学部まちづくり工学科の落合正行助教（建築家）を招き、土木・建築分野を横断する活動を紹介頂きました。この勉強会は23年度、さらに活動を活発化したいと考えています。

また当委員会では、JIA 本部まちづくり会議との連携に加え、建築五団体や地方自治体で構成する「景観まちづくり協議会」のWG 委員会に委員を派遣し、自治体に向けたデザインレビューガイダンスの支援を継続して行っています。

8. 建築・まちづくり委員会（委員長：連健夫）

当委員会は、建築やまちづくりを通して建築家の職域を広げるための情報共有と仕組みづくりを目的にして活動をしています。具体的には、セミオープン勉強会として、第1回は寶神尚史氏から「まちとつながる住まい方の提案」、第2回は、澤田雅之氏から「仕様発注方式と性能発注方式」の話を頂き、ディスカッションをしました。

建築まちづくりを考えるに当たり、行き過ぎた資本主義を考察する目的から関連書籍として3冊「人新世の資本論」（齋藤幸平）、「里山資本主義」（藻谷浩介）、「都市は誰のものか」（五十嵐敬喜）をメンバーで担当し、読後感を元にディスカッションしました。JIA まちづくり会議との連携については、「良質な建築・美しいまちづくり萌芽事例シート」で集められた事例から、セレクトされた2事例（兵庫県洲本市炬口地区まちづくり事業）（子安の丘みんなの家）の発表会を行いました。これらの活動は、ブルチンの「良質な建築・これからのまちづくり」シリーズに寄稿し、会員への発信を行いました。これらはブルチンの「良質な建築、これからのまちづくり」シリーズに寄稿し、会員への発信を行いました。

行政との良好な関係づくりのツールとしての「コンペ・プロポーザル支援リーフレット」は、支部の発注者支援活動との連携の中で更新中です。

コロナ禍において、対面活動が制限される中、オンラインのメリットを活かし、関連委員会や他団体との協働も行うことができ、次につながるネットワークづくりとなりました。

9. 災害対策委員会（委員長：風戸宏孝）

災害対策委員会は年6回の委員会を開催しました。第6回の委員会では、皆様にご協力を頂いて作成した災害支援ネットワークをもとに、関東甲信越支部の災害担当の方々にも参加を頂き、木造仮設コンテナや、トルコ地震等の情報交換の場として意見が交わされました。

2011年3月11日に発生した東日本大震災から今年で12年が経過しています。昨年8月末、JIA 東北支部主催の東日本大震災復興ツアー「繋ぐ」にPCR 検査の中、参加する機会をえました。陸前高田、気仙沼、南三陸、石巻、そして、双葉町。10mを超す防潮堤、盛土の上か高台移転の新しい街。福島第一原発の廃炉への気の遠くなる果てしない道のり。

はたして建築家に何ができるのでしょうか？

10. 環境委員会（委員長：宮崎淳）

環境委員会は、持続可能な環境建築の推進と実践に向け、会員並びに社会に有用な情報を発信することを活動目標としています。

今期も前期に引き続き、4月～11月に開催された4回にわたる「2050カーボンニュートラル連続セミナー」のお手伝いを行いました。

また、本部所管の「カーボンニュートラル特別委員会」に4名か委員・オブザーバーとして参加をし、そこで議論を受けて委員会内で検討・議論を行いました。具体的には「カーボンニュートラル特別委員会」で主要検討課題であるとされたLCA（ライフサイクルアセスメント）のWGを委員会内に設置し、環境委員会に合わせて8月以降毎月、LCAについての情報の収集と議論を行ってきました。現在は、JIAの皆さんにLCAについての知識を持ってもらうための「(仮)LCAガイドライン」の作成を行っており、住宅の省エネ義務化に向けてLCAの考え方も取り入れてほしい旨の提言ができないか、ということについての検討を行っています。

今期は委員会独自の活動として、中断しているSDGsセミナーの再開を考えていたのですが、LCA WG等の活動で多忙だったため、実現することができませんでした。

来期は、新たな委員長の元、LCA WGの継続と共に、カーボンニュートラルに寄与する持続可能な環境建築の推進に向けて、様々な情報発信等を行っていただきたいと思います。

11. アーバントリップ実行委員会（委員長：赤川鉄哉）

■2022年度は、新型コロナウイルス感染症対策の継続・緩和に伴い、Zoom ウェビナーによるオンラインセミナーを2回、チャーターバスによるリアル見学を1回実施いたしました。オンラインセミナーでは、大人数では見学が困難な建築家の自邸を取り上げ、それぞれ、約150名、約120名の参加申し込みを受け付け、

好評裏終えています。また、リアル見学では、御殿場・函南方面を訪ね、静岡地域会の参加者を含め約 50 名の参加者を得ました。会員の資質の向上や外部への発信に寄与できたものと考えております。

■第 95 回 アーバントリップ・オンライン

ふたつの自邸の見学ビデオのストーリーミングとライブトークで構成したオンラインセミナー

テーマ：「小なるものの無限性」/保坂猛が語るふたつの自邸

日時：2022 年 9 月 21 日（水）18：00～20：15

見学・取材先：LOVE HOUSE（横浜） LOVE2 HOUSE（東京）

設計者：保坂猛

登壇者：保坂猛 保坂恵

■第 96 回 アーバントリップ・オンライン

自邸の見学ビデオのストーリーミング、工事記録写真や設計図面の紹介などとライブトークによるオンラインセミナー

テーマ：Ma Maison 林寛治「私の家」を語る

日時：2022 年 12 月 3 日（土）13：30～15：30

見学・取材先：林寛治自邸

設計者：林寛治

登壇者：林寛治 林アメリ 林太郎

■第 97 回 アーバントリップ

近代数寄屋から、近現代の日本性を漂わせる建築・庭園をめぐる、リアル見学ツアー

テーマ：日本の心に遊ぶ

日時：2023 年 2 月 16 日（木）8：15～18：45

見学先：東山旧岸邸、とらや工房、富士カントリークラブ、かんなみ仏の里美術館

設計者：吉田五十八、内藤廣、アントニン・レーモンド、栗生明

講師：川嶋健史（水沢工務店）、栗生明（栗生明＋北川・上田総合計画）

案内：野田亜矢子（虎玄）、菊地温子（富士カントリークラブ）

12. JIA トーク実行委員会（委員長：松岡拓公雄）

1976 年よりスタートした JIA トークは、日新工業株式会社の協賛により、社会に向けた文化的事業として、主に建築以外の各方面で活躍されている方々を講師に招き、会員の知見を広めるため、年 4 回の講演を基本にしている。

2022 年度は、JIA の指針にそって 3 回目まではコロナウイルス対策をした上で、そして最後の 4 回目はコロナ禍が治まる方向となり規制をはずしての講演となり、通常通り年間 4 回行った。

今年度は、第 1 回及び第 2 回については JIA 会館を、第 3 回及び第 4 回は株式会社 東京デザインセンターの協力により、ギャラリーホールを会場として使用した。JIA トークは、基本的にはリアルでの集いであり、今後もリアル主体で開催することを確認している。

第 1 回講演会「旅の中で出会った建築」

講師：村治佳織（クラシック・ギタリスト）

2021 年 6 月 21 日（火）

会場：建築家会館 1 階ホール

第 2 回講演会「持続可能な社会は本当に実現可能なのか」

講師：真板昭夫（エコツーリズムクリエイター）

2021 年 9 月 23 日（金）

会場：建築家会館 1 階ホール

第 3 回講演会「多様性とは「選択肢を増やす」こと

講師：乙武洋匡（作家）

2022 年 12 月 8 日（木）

会場：東京デザインセンター ギャラリーホール

第 4 回講演会「いま迫りくる地球危機を前にして」

講師：岩崎俊介（市民活動家、都市デザイナー、建築家）

2023 年 3 月 30 日（水）

会場：東京デザインセンター ギャラリーホール

13. 学生デザイン実行委員会（委員長：鈴木隆）

学生デザイン実行委員会では第 31 回東京都学生卒業設計コンクール 2022 を、5 月 14 日（土）に開催致しました。

コンクールに向け、月に 1 回の定例会を開催し、会場の選別や審査委員の選定などを行って参りました。新型コロナウイルスの影響もありましたが、共立女子大学さんのご協力のもと、三年ぶりに全ての出展者と模型を一堂に会しての開催が出来たことは、学生さんにとっても委員会としても大きな一歩となりました。23 大学 5 専門学校から 55 作品が集まりました。審査委員長には渡辺真理氏、副審査委員長に工藤和美氏、審査委員には山田憲明氏、原田麻魚氏、川島範久氏を迎えました。大変充実した議論の結果、金賞、銀賞、銅賞、審査委員特別賞の 8 作品を選出して頂きました。また、奨励賞には 2 作品を選出しました。11 月末には作品集も完成し活動内容の情報発信を行っております。コンクールのオンライン配信や作品集のデジタルアーカイブ化を行うことで、これから卒業設計を行う学生さんにとって有効に利用して頂けるコンテンツを作成できたことは本年も大きな成果であったと思います。また 12 月にはこれから卒業設計を行う学生さん達を対象とした「卒業設計で目指したこと、できたこと、できなかったこと」と題したトークセッションを、渡辺真理氏・原田麻魚氏をコメンテーターとしてお迎えしながら、入賞者と共に開催することが出来ました。一年を通して有意義な活動を行えましたことをここにご報告させていただきます。

14. 大学院修士設計展実行委員会（委員長：伊藤博之）

「大学院修士設計展」は第 21 回目を迎え、昨年に引き続き参加校・出展数とも最多を記録しました。2012 年度より WEB 展に加えて、図面と模型を展示する展覧会、および 1 名の建築家による審査、講評を行っています。作品と審査・講評、各大学の研究室紹介をおさめた作品集が総合資格学院の協賛を得て、毎年刊行さ

れています。

コロナの影響により近年は会場における展覧会は開催できませんでしたが、今年は4年ぶりに工学院大学新宿キャンパスにおいて展示会を行うことができました。書類審査および展示会場における1次審査で9人が2次審査に進み、発表審査を行いました。2次審査の様子はウェビナーによりリアルタイムで発信を行いました。会場の設営や配信については、この場を借りて関係者皆様へ御礼申し上げます。

次年度も引き続き実空間による展覧会と審査を継続し、修士設計に対する各大学の取り組みを共有し、日本の大学院における建築教育をさらに活性化し提言する場となるべく、より一層の発展を目指したいと思っております。

展覧会 2023年3月14日-16日、

審査会：2023年3月15日、

於：工学院大学新宿キャンパス1Fアトリウム

審査員：飯田善彦氏

参加大学：30大学（33専攻） 出展数：56作品

15. 交流委員会（委員長：相野谷誠志）

昨年4月からの委員会活動については、前年度と同様にコロナ感染の状況から、前半の時期は、なかなか通常通りの対面会議や施設見学会の実施等が困難な状況が続いていました。その中で、各委員の方と協力しながら、オンライン（Zoom等）を使って、各グループ単位での会議や、月1回の広報部会と幹事会（各グループ代表）を開催して、委員会内の情報交換等を行っていました。

後半からは、コロナ感染状況の確認を行いながら、通常の対面での会議開催、交流委員会全体でのゴルフコンペの実施、各グループでの施設見学会や懇親会を開催することができました。

今後の状況を考慮しながら開催の可否を考えていく必要はありますが、やはり直接人と会って行うイベントや会議の方が、情報のやり取りだけでなく、本来の当委員会の目的である人と人との繋がりという点では、より良い方法であると感じています。

その一方で、このような状況になったことから採用してきたオンラインでの会議や各メーカーからの情報発信の手段としての「オンラインセミナー」についても、情報の共有や発信という手段としては、参加することが簡易にできる利点を生かして、多くの方が参加できるということから、今後もより参加者を増やす努力をしながら、継続して開催していきたいと思っております。

昨年度からの課題である他の支部との交流については、今年度開催されたJIA全国大会に関東甲信越支部の交流委員会の委員の方も数名参加していただき、意見交換ができる場がありました。

さらに、他の支部との交流の場を作り、全国での交流委員会（協力委員会）の範囲拡大を図りたいと思っております。

IV. 部会活動報告

1. デザイン部会（部会長：山本想太郎）

本部会の活動は、建築デザインおよびそれに関する職能について論じる一般公開イベントを中心とするものです。本年度も新型コロナウイルス感染症流行に伴う自粛措置のため対面での公開イベント開催は見送りましたが、登壇者のみが集まり公開配信する形で、下記、公開イベントの開催協力を行いました。2021年度に本部会で開催した公開トークイベント『建築コンペとは何か——2021 updated version』を継承する内容のイベントであったため、部会長である山本想太郎が参加し、部会での議論を受けたプレゼンテーションをおこないました。

今後も「建築コンペ」は本部会の主テーマのひとつとして、イベント等により議論を継続する予定です。

（以下、イベント概要）

イベント名称・日時：知的生産者支援機構・一般社団法人日本建築まちづくり適正支援機構 連携記念シンポジウム『良質な建築のための発注者・コンペ支援とは？』（2022年9月25日（日）19：00～20：30）

登壇者：仙田満（知的生産者支援機構理事）、上浪寛（知的生産者支援機構理事）、連健夫（JCAABE代表理事）、山本想太郎（JIAデザイン部会長、JCAABE設計コンペ・プロポーザル相談室長）

内容：良質な建築や街を創るためには、発注者がそれに相応しい設計者を選定することが大切であるとし、この発注者、設計コンペの主催の支援を担う専門家である第三者機関の重要性について議論をおこなった。

2. 都市デザイン部会（部会長：宮崎淳）

コロナ禍の前まで、都市デザイン部会では毎年、講演会やまち歩きを開催、部会員によるショートレクチャーと活動報告、研修旅行と積極的な活動を行ってまいりましたが、コロナの影響で状況は大きく変わってしまっていました。2020年に対面での活動ができなくなってから再開するタイミングを見計らっていましたが、今年度は、ようやく7月22日に対面で拡大例会を開催することができました。やや感染者数が増加傾向の時期だったこともあり、皆さんにPCR検査・抗原検査を行い、陰性を確認したうえでご参加いただきました。

イタリア在住の建築家である渡邊泰男氏に『イタリアでの設計活動～ウルビーノの教会他～について』と題してご講演頂きました。イタリアにおける渡邊泰男氏の作品のご紹介と、イタリアの地で地元の方々の心のよりどころとなる教会を日本人が設計することについての経緯やご苦労などについてお話しいただき、美しい写真と共に、とても貴重なお話をお聞きすることができました。渡邊泰男氏の古くからのお知り合いの方にもご参加頂けたので、旧交を深めていただく機会にもなり、やはり対面での活動が重要であることを改めて実感しました。

ようやくコロナ禍も一段落してきていますので、是非来期は対面での活動を積極的に行っていきたいと考えています。

3. 住宅部会（部会長：関本竜太）

2022年度は年間の活動テーマに「フィールドに学ぶ」を掲げ、コロナ禍にあってもオンラインのみにとどまらず、積極的にフィールドに出て、よりアクティブな部会活動の展開を試みた1年となりました。

具体的には6月のタニタハウジングウェア本社屋見学、また10月の多摩産材見学会などの企画がそれにあたります。部会員達が久しぶりに顔を合わせ、共に体を動かし飲食を共にできた今年度を象徴するイベントとなりました。

また7月と11月には、建築家会館大ホールからのリアル+ZOOMのハイブリッド配信として、構造家の山田憲明氏、建築家の益子義弘氏をそれぞれお招きし、一般参加も含めた大規模セミナーを開催しました。それぞれの回には数百人規模の参加者があり、後日配信したYouTube動画にも多くの再生数が記録され、大きな話題となりました。こうした取り組みは、コロナ禍においても、住宅部会の行動力や存在感をJIA会員や社会に対して示す結果となったように思います。

そのほか、弁護士の安藤亮氏、ワイスワイスの佐藤岳利氏のセミナーは、社会性と時事性をともに持ちあわせ、部会員にとっても貴重な学びの機会となりました。また住宅部会賞は今年度で第5回目を数え、新しい入会者からも数多くの応募案が集まりました。

■ 運営について

住宅部会の日（勉強会、作品レビュー、見学会、講演会、納会など）

原則毎月1回、部会活動の日時と場所を設け、主に会員相互の研鑽、情報交換や交流を目的とした企画を開催しました。2022年度は原則「毎月第2火曜日」を活動の日とし、その他適宜イベントに応じた曜日や日時を設定しました。

□第1回 住宅部会の日<4月12日（木）>27名参加 ZOOM ミーティング

・住宅部会賞 2021 受賞者作品レビュー

＊15分プレゼン+5分質疑／人

5人の受賞者による ZOOM を用いたプレゼンが行われました。

<発表した受賞者>

・「KOTI」関本 竜太／10宅選選出作品

・「くの家」津野 恵美子／住宅部会長（中村雅子）賞

・「Futaba ～それぞれの距離を考える家～」伊藤 昭博／渡辺武信賞

・「土間のある家～ふたりの棲家」三上 紀子／室伏次郎賞

・「中村自邸+2つのアトリエ」中村 高淑／10宅選選出作品

□第2回 住宅部会の日<5月10日（火）>31名参加 ZOOM ミーティング

木材WG 関連セミナー「木材のなぜ？と誤解！」

講師：高橋隆博氏（アトリエ秀）・松浦薫氏（協和木材）
プレゼンターである高橋氏と松浦氏からは、木材のスペシャリストとして現在の木材流通の問題点や矛盾、革新的な木材利用技術や空間への転用方法などについて、その知見をふんだんにご披露頂きました。

□第3回 住宅部会の日<6月14日（火）>19名参加
タニタハウジングウェア東京本社

タニタハウジングウェア東京本社見学+板金体験

特別講師：新井勇司氏（板金職人）

板橋区にあるタニタハウジングウェアの本社にて、板金職人の新井勇司氏を特別講師に迎え、立はげ葺きなどを実際に折るといふ板金体験を行いました。グループに分かれて作業をしたのちは、懇親会で生ハムも振る舞われ、久しぶりにリアルでの懇親を楽しみました。

□第4回 住宅部会の日<7月12日（火）>

109人（ZOOM）+21人（会場）参加

建築家会館大ホールより、ZOOM ウェビナー配信

住宅部会セミナー「小さな建築の構造デザインを考える」

講師：山田憲明氏（構造家）／進行役：関本竜太

これまで協働された6名の建築家との具体的な小規模木造建築の構造手法を紹介し、建築家側とどのようなやりとりをして構造的解決に至ったのかや、設計ストーリーの共有、建築家ごとの進め方の特色などを含め詳細にお話し頂きました。後半のトークセッションでは、進行役とのやりとりにより、前半のセミナー内容を深掘りしました。

□第5回 住宅部会の日<8月9日（木）>17名参加
ZOOM ミーティング

納涼会+テーマセッション | トークテーマ「失敗を語る」

それぞれの仕事における失敗談を語るということで、最初は皆さんやや緊張気味でしたが、お酒が進むにつれ次第に口がなめらかになり様々な話が飛び出しました。

□第6回 住宅部会の日<9月13日（木）>14名参加
ZOOM ミーティング

「トラブルを未然に防ぐために大切なこと」

講師：安藤亮氏（弁護士・山崎哲法律事務所）

Bulletin でも連載を持つ弁護士・安藤亮氏をお招きして我々が設計業務で気をつけるべきクライアントとのコミュニケーションや巻きこまれやすいトラブルなどについて、事例を交えてわかりやすく解説を頂きました。

□第7回 住宅部会の日<10月7日（金）>15名参加
バスツアー（武蔵五日市駅前 9:30 集合）

「東京の森～多摩産材見学会」

案内役：高橋隆博氏（アトリエ秀）／ご協力：中嶋材木店
東京都内にもちゃんと山があり、あきる野市周辺の山から採れる良質な木材があるということはあまり知られていません。この日は中嶋材木店さんのご協力のもと、貴重な見学体験をさせて頂きました。

□第8回 住宅部会の日<11月8日（火）>

180人（ZOOM）+22人（会場）参加

建築家会館大ホールより、ZOOM ウェビナー配信
住宅部会セミナー「時代—自分史—住まいづくり」
講師：益子義弘氏（益子アトリエ）

益子氏の学びのはじまりから近作ホテリ・アアルトまで、そのキャリアを俯瞰した内容でした。これまでの歩みを時系列にすべてお話し頂けたことで、ベテラン世代には多くの共感を、そして益子氏の活動をリアルに知らない学生や若手世代には新鮮な視野や学びがあったことと思います。

□第9回 住宅部会の日<12月13日(金)>17名参加
ZOOM ミーティング 担当：久保田恵子

忘年会+テーマセッション | トークテーマ「写真で語るディテール」

参加者持ち寄りでご自身の建築のディテールから、訪れた建築で感心したディテールなど、それぞれの視点でユニークな写真が多数集まり皆でツッコミを入れながら楽しい時間を過ごさせて頂きました

□第10回 住宅部会の日<1月10日(金)>21名参加
ZOOM ミーティング

「SDGs 時代、国産材・地域材、そしてフェアウッドの価値と未来について」

講師：佐藤岳利氏（株式会社ワイズワイズ C00）

世界の環境の激変、フェアウッドをめぐる実情や環境意識など幅広い問題提起があり、その語り口に強く惹きつけられました。懇親会の席でも、環境問題やフェアウッドの意識について白熱した議論が繰り広げられました。

□第11回 住宅部会の日<2月14日(月)>35名参加
ZOOM ミーティング

「第5回住宅部会賞10宅選」公開選考会（応募案：23作品）

選考委員長：関本竜太 / 住宅部会長(第43代)

特別選考委員：渡辺武信 / 第6代住宅部会長、名誉住宅部会員

選考委員：室伏次郎 / 日本建築家協会・元副会長、住宅部会員

選考方法：オンライン公開選考会にて応募者によるプレゼンテーション

（任意・1人2分以内/代読や動画も可）を経て、住宅部会員による投票（部会員各自2票、および選考委員各5票）による得票数にて選出、3作品は選考委員推薦の個人賞とする

会員内外より計23案の力作が提出され、各自5分の持ち時間の中でプレゼンテーションが行われました。今年は会員外からの応募が9案と過去最多となり、刺激的な意欲作が多く出展されました。

□第12回 住宅部会の日<3月17日(金)>
ZOOM ミーティング

住宅部会納会+住宅部会賞2022 選考結果発表を行いました。

4. メンテナンス部会（部会長：奥澤健一）

コロナ禍状況が続いていましたが、昨年度から対面に代わり開始したWebセミナーをおおむね毎月1回程度の頻度で開催しました。マンションを中心とする建築物の修繕や改修をテーマとして、主に部会メンバーの実務における事例紹介をメインとしたセミナーです。外壁修繕や耐震改修や給排水設備の改修に関わる技術的内容が主なテーマとして取り上げていますが、マンションのコミュニティ問題にも深い造詣をお持ちの外部講師にも講演を依頼するなど、ハード面だけでなくソフト面も含め、幅広い題材を取り上げています。これまでの30年間に渡り継続してきたセミナーと同様、建築士をはじめ、施工会社や材料メーカーの技術者、マンション管理組合の役員や居住者などのマンション管理に携わる方々に広く公開するかたちで開催しています。

また、徐々に再開されるようになってきた（公財）マンション管理センター主催のセミナーへの講師派遣や、地方公共団体やマンション管理組合団体などからの相談なども継続しています。

今後も引き続き建築物、特にマンションの修繕や改修をテーマに、部会メンバー間で実践的な技術情報の共有と発信、耐震改修や設備改修、さらに超高層マンションの大規模修繕などにも積極的に携わり、マンション管理組合の支援をしていきたいと思えます。

5. 住宅再生部会（部会長：岸崎孝弘）

昨年度同様、今年度も引き続きコロナ禍により、思うような活動を行うことができないままに終わっている。それに加え、中心メンバーの高齢化などによる活動の鈍化と、中堅メンバーの多忙による活動に時間を割くことが困難な状況であるのも実態と言える。

本来であれば毎月の定例幹事会も一階も開催されていないだけでなく、本来の主活動である住宅再生セミナーも同様に1回も開催できずに終わっている。

メンバーによるフィールドワークも実施できなかったが、かろうじて展示会やオープンハウスなどの情報をメールなどで共有し、参加できそうなものには各個人で参加している程度の活動に留まっている。

今後の活動としては完全に未定であるが、これまで30年に渡り続いてきた部会活動を無くすには忍びなく、今後どのような活動ができるのかをメンバーで話し合い、できる限り継続していきたいと考える。

6. 情報開発部会（部会長：天神良久）

情報開発部会は法人協力会員Gグループと合同で、月に一回部会・勉強会を開催しています。

主なテーマはIT系（CAD、CG、情報通信）と、時の技術動向に関する勉強会が中心です。

今年度はコロナ禍が長引き対面出来ない為、部会はZOOM（Web会議システム）を利用した開催も検討しましたが、部会全体としての開催は行わず、部会員

個別の情報交換のみを行ないました。
来年度は、ハイブリッド（JIA 会議室+Web 会議システム）の開催を検討する予定です。
新会員は随時募集中です。JIA 関東甲信越支部のホームページに「勉強会」のお知らせを掲載する予定です。
ご興味の方はお気軽に部会・勉強会にご参加ください。

7. 建築交流部会（部会長：観音克平）

コロナ禍状況下、JIA 館会議室ほかで、個人活動情報の共有と他会主催のイベント（7月7日 北坂戸大智寺ほか、川越周辺まち歩き等々）参加。

4月26日（火）JIA 館5階A会議室にて

15時～。第1回家協会建築交流部会

観音、木村、亀井、大森、平尾 出席

・コロナ禍での活動状況報告など。

8月4日（木）三鷹駅前周辺コミュニティーセンター（三鷹市下連雀3-13-10）

18時30分～。第2回家協会建築交流部会

観音、木村、亀井、大森、平尾 出席

・コロナ禍での活動状況報告など。

9月8日（木）府中分倍河原エビス本店

19時～。第3回家協会建築交流部会

観音、木村、亀井 出席

・各人活動報告今後の展望（秋旅行）など。

9月22日（木）新宿カフェアマティ

18時～。第4回家協会建築交流部会

観音、木村、亀井、古池、平尾 出席

・秋旅行の件など。

10月6日（木）新宿居酒屋「かあさん」

18時半～。第5回家協会建築交流部会

木村、観音、亀井、大森、平尾 出席

・秋旅行の件など打ち合わせ。

11月17日（木）～11月20日（日）

家協会建築交流部会 秋旅行実施

観音2名、木村2名、亀井、西、平尾

17日 羽田空港発山口宇部空港着（ANA639便）⇒昼食（和風割烹）心織⇒渡辺翁記念会館⇒中原中也記念館⇒湯田温泉 西の雅 常盤 宿泊

18日 瑠璃光寺五重塔⇒山口県政会館⇒山口ザビエル記念聖堂⇒常栄寺雪舟庭⇒昼食 萩庭園レストランほとり亭⇒堀内地区重文伝統建築物群保存地区⇒萩市役所⇒萩郵便局⇒旧萩藩明倫館 松下村塾⇒萩焼窯元⇒長門湯元温泉 湯本観光ホテル西京 宿泊

・山口地域会会長久保氏、西京に来訪あり。

19日 仙崎 金子みすず記念館⇒元乃隅神社

千畳敷⇒川棚 元祖瓦そばたかせ本店⇒川棚お温泉交流センター⇒住吉神社本殿⇒功山寺⇒毛利邸 庭園⇒魚正本陣（ふぐ魚介割烹居酒屋）夕食 下関 唐子セントラルホテル 宿泊

20日⇒南部町郵便局⇒田中絹代文化館⇒秋田商会⇒ごぼう蕎麦⇒秋芳洞 秋吉台⇒秋吉台国際芸術村⇒宇部郵便局⇒山口宇部空港発羽田空港着（ANA700便）

・今後の活動、方向などについて継続協議。

1月27日（金）南新宿の貸会議室にて

丹下敏明講演

部会メンバー他35名出席

・丹下敏明さんの主張（サグラダファミリアの現況とガウディの原案の乖離など）

2月17日（金）JIA 館5階A会議室にて

18時～20時。第6回家協会建築交流部会

観音、木村、古池、亀井、大森、出席

・建築交流部会「山口ツアーのレビュー」、今後の計画他
3月7日（火）JIA 館建築家倶楽部にて

16時～20時。第7回家協会建築交流部会

・家協会建築交流部会特別講演会（近代洋風建築研究会：講師 観音）部会メンバー含め約45名（迎賓館説明員ほか）参加。

・元部会員 故小倉弘安さんの「偲ぶ会」（2周忌：2月17日が命日）を兼ねる。（亀井天元 記）

8. 再生部会（部会長：大橋智子）

再生部会は、歴史的に価値のある建築物を使い続けるための活動を継続しています。約15名のコアメンバーを中心に、関東甲信越支部以外の会員も参加して、毎月定例会を開催しています。

今年度もコロナ禍のため、会議は全てWEBで行いました。部会員が提案する歴史的建物の内部勉強会、各地からの情報交換、保存再生に関する意見交換を行いました。

2022年度は定例会の他、保存改修事例を集めたWEBサイト「建築リノベーションアーカイブ」の作成について話し合い、4月1日より公開することができました。URLは<https://renovation-archive.com/> 今後も事例を収集してサイトを充実させていきます。

9. ミケランジェロ会（部会長：亀井天元）

コロナ禍状況と、プロムナードギャラリーの閉鎖などにより、メール連絡などにより、メンバー各人の活動（作品展など）及び状況報告の共有。個人活動の展示情報の共有と参加拡大。

（有楽町・ふれあい展など）

JIA 会館会議室などにて活動打ち合わせ共有。（4月28日（木）15時～など、亀井、観音、横田 出席）

新規若手メンバーの参入を目ざし

<https://next-city.com/schola/>

PR 活動中。今後の作品発表と傾向、若手メンバー拡大について、機会をとらえ継続協議。

12月20日（火）

JIA 館5階A会議室にて活動打ち合わせ共有。

亀井、観音、半谷、今井 出席

2月26日（日）～3月4日（土）

有楽町・ふれあい展（家協会建築交流部会木村智氏ほか主催）に参加出展（観音、半谷、今井、亀井）

10. 金曜の会 (部会長：井原正揮)

「金曜の会」とは、建築家クラブの活性化を目的としたトークイベントを開催している団体です。建築家会館のクラブ・バーは、かつて前川國男氏をはじめとする建築家たちが交流を深める場として賑わっていましたが、一時閉鎖されてしまいました。しかし、2008年に前川氏が提唱した「処士横議の場」の復活を目指し、クラブ・バーを再開、建築家クラブを併設することで、再び活気ある場所として歩み始めています。

現在、「金曜の会」は、建築をキーワードに、JIA 会員をはじめ、学生や一般の方々と共に、建築に関する学びや楽しみ、語り合いの場としてのサロンとして活動しています。毎回、建築に携わる方々をゲストに迎え、建築家としての視点や知見を語り合うことで、建築に興味がある人たちが集まる場として、非常に注目されています。

2022年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で、昨年に引き続き集まることが難しい状況でした。しかし、オンラインのインフラを活用して、JIA 建築大賞や新人賞の受賞者による発表や、対談形式のトークイベントを配信し、サロンとしての場を提供しました。これらの配信は、地理的に離れた場所からでも参加できる利点があり、日本全国あるいは海外から多くの人々が参加し、大いに盛り上がりを見せました。

今後は、日常生活が戻ってくる中で、リアル開催とオンライン開催の良い部分を活かし、サロンの活用と建築あるいはJIAの裾野を広げることを両立させたいと考えています。

また、「金曜の会」は、建築に関する書籍化の第二弾として、内藤廣氏の6回連続講座出版に向けて、建築家会館、建築ジャーナル、金曜の会メンバーが協力して取り組んでいます。関係者の皆様には、このような貴重な取り組みに協力していただき、心より感謝申し上げます。

11. 学芸祭部会 (部会長：大川宗治)

学芸祭部会は、協力会員も含めたJIA会員同士の交流という目的のもとに活動しております。例年は、新年の集いやJIA大会における演奏などの活動を通じて、他の支部を含めた会員同士の交流を図っておりましたが、今年はその機会がなく、活動はありませんでした。

V. 地域活動報告

1. 神奈川地域会 (代表：柳澤潤)

今年度の神奈川地域会では昨年4月に所信表明しました『「タウンアーキテクト」としての地域の中の建築家』をテーマに掲げ、建築家の様々な地域での活動、その展開の仕方に着目しました。新型コロナの影響でここ数年来叶わなかった4回の“まち歩き”を通して、建築家に実際にそこでレクチャーをいただき、まちの人の声や建築家、活動家の方々の肉声を通

して、JIA 神奈川地域会の会員や一般の方々とタウンアーキテクトの可能性を共有しました。

第一回は横浜・戸部、藤棚商店街で活躍されている永田賢一郎さんの活動、川崎・武蔵新城のピークスタジオ(佐屋香織さん、藤木俊大さん、佐治卓さん)の活動、第二回は“ニシイケバレイ”の須藤剛さんの西池袋での活動、第三回は千葉・柏の葉キャンパスのUDCK(アーバンデザインセンター)にて柏の葉キャンパスのまちづくりの実践と歴史を学び、その後西千葉で西山麻衣さん(マイキー)の工房や公園での市民主体の屋台販売などを見学し、意見交換会を行いました。第四回は鎌倉です。ひと・まち・鎌倉ネットワークの方々(代表：波多周さん)による丁寧な説明により3時間以上のまち歩きでしたが、終わった後皆さん、達成感のようなものが感じられる充実した会となりました。また第三回の後にJIA千葉地域会との懇親会も行われ、お互いに初めて他の地域会との懇談することが出来、とても意義深い機会となりました。これら“まち歩き”を通して感じて共通していたことは、おそらく建築家の説明が無ければ見逃してしまうような些細な仕掛けから出発していて、そこから少しずつ地域の信頼を得ながら、まちに安心感を与えている、というまさに点が線になるプロセスの設計です。このプロセスの設計は初めから既定のかたちがある訳ではなく、そこで暮らしながらまたは関わりながらどうすればまちがもっと良くなるか、人の関係が豊かになるだろうか、という疑問から出発して、それぞれが独自の個性を發揮したものです。わたしたちはそこに地域における建築家の存在の重要性をはっきりと感じました。タウンアーキテクトの可能性の追求はまだはじまったばかりですが、少しずつその像がリアリティをもって、これからのわたしたち建築家の生き方のようなものの指針になるのではないかと、とう期待を抱いています。3月には“第34回かながわ建築Week”称して、鎌倉芸術館において布野修司さんの基調講演を皮切りに若手建築家(Yong Architect、Peak Studio)とのシンポジウム、タウンアーキテクト展、卒業設計コンクールも行いました。特に布野修司さんの“タウンアーキテクトの可能性”における講演内容は布野さんが2000年以前より試みてこられた制度の中での建築家の役割について、改めて私たちが挑戦すべき事象が多くありました。

11月に行われた横浜市公共建築100周年事業の一環で行われたこども空間ワークショップ、毎月のオンラインでの役員会、さらには月に1~2度行われる建築相談会なども、JIA神奈川地域会として、一般の市民の方々に接する機会を持たせたことも報告致します。昨年12月末には数年ぶりに「望年会」も開かれ、協力会、会友の皆様との親睦も改めて共有できました。最後に、JIA神奈川地域会の組織運営につきまして、昨年一年間事務局を担っていただきました井上

恵美子さんがご家庭のご事情で12月に退職なされ、1月から新たに中川ちあきさんが事務局に入ってくださいました。またこれまで長く使用していた大津ビルをこの3月をもって移転し、4月からは新事務所（横浜市中区不老町1-1-1、守谷ビル9F）に移転します。新たな門出を迎えるJIA神奈川地域会ですが、どうか引き続きご指導、ご支援を賜りたいと存じます。

2. 千葉地域会（代表：森田敬介）

■活動の基本方針

本年度のスローガン

『Discover True Architect』
～新しい時代における建築家の職能の探求～
益々不透明になりゆく社会を直視する中で、JIA千葉の社会的意義を発掘し、会員にとっての魅力を再発見する旅に出ることをイメージして今の実態に即応した活動を理念に活動しています。

具体的な取組みとしては、下記の4つの活動方針を軸にABC3つの取組みを展開しています。

【活動の方針】

- ・新しい時代の建築家としての高い能力の持続的確保
- ・公益法人の社会的意義の掘下げと会員の誇りの追求
- ・建築家にできる地域社会へのソリューションの探求
- ・業界を超えた他団体交流・協働による社会認知UP

【活動の取組み】

- A. つづく社会に向けた取組み
- B. 団体の価値向上のための取組み
- C. 会の安定的な運営に向けた取組み

■会員拡大WGの創設と運用

様々な団体が会員の高齢化による減少が待ったなしの状況に置かれる中で、JIA千葉もまさにその渦中であり、本部方針で地域会加入が義務化されない以上、今動かなければ地域会は座して死を待つ事になります。こうした事から、若手とベテラン数名による会員拡大WG（ワーキンググループ）を結成し、あらゆる活動を会員の発掘・増強に特化した視点から見直す取組みを始めました。

これにより、公益社団としての社会的意義に加えて、会員にとっての魅力ある組織づくりを目指します。

■ちばの木づかいプロジェクト

JIA本部より50万円の公益活動助成金を受け活動した『千葉の森林再生プロジェクト』に続いて、新型コロナウイルス感染拡大のため2021年度に開催予定しておりました「木材利用促進百科」を2022年6月24日ようやく開催することができました。

「木材利用促進百科～国際材自給率アップに向けて～」を題し、農林水産省 林野庁林政部 木材利用課 千葉県 農林水産部 森林課、千葉大学教授をお迎えしての講習会を開催しました。

■第35回千葉県建築学生賞（3月11日・12日）
建築団体の卒制コンクールでは、全国の先駆けとし

て本年度で35回を数える本賞は、建築学会・建築士会・事務所協会を含む建築設計4団体で協議会を創設して運営しています。

JIA全国学生卒業設計コンクールへの出展作品の選定も本賞の審査で決まります。

出展学生が会場に集合して学生自身によるプレゼンテーションの場を公開の形で提供することが出来ました。

■その他の活動

2022年新年会に開催を予定していたリレートークですがコロナ拡大により2022年度通常総会後に会員を講師とし、「キールトラスに使う丸太を山から伐りだす」（立木選定、葉枯らし乾燥、輸送）、「杉型枠打放しコンクリートの設計事例の紹介」（設計・施工のポイント）と題し開催。

また、2023年新年会では会員による「自身の近作とJIA住宅部会の活動」と現在建築関連団体と共同で開催しているBIM推進協議会より若手の方を講師に迎え「BIM研究の発表」のリレートークを開催しました。業界を超えた他団体交流・協働による社会認知の主旨として専門の監理業務において、近年、特に肌で感じる現場人材（監督・職方全て）の高齢化と若手の不足による「現場力の低下」に歯止めをかけるべく、千葉県が先駆けて足掛かりとなる活動に着手したい。具体的には、まず最近感じている監督の人材不足、特に伝承不足・高齢化による問題にメスを当てて、若干と中堅に向けた学習会を設計監理事業のJIA千葉と施工の千葉県建設業協会の共催を願うものであります。

3. 埼玉地域会（会長：代田正司）

埼玉地域会会員数は40数名である。しかし積極的に地域会活動に参加しているアクティブ会員は10名弱で固定された顔ぶれである。役員会ではこの状況に地域会存続の危機感を共有し、今年度より「多くの会員が参加できる魅力ある地域会づくり」を目標として活動の柱とすることとした。まず会員全員に地域会との関わりについてのアンケートを実施した。続いて地域会の今後のあり方を一から見直し新たな提言をもらう為「あり方委員」3名を任命し活動を開始した。すでに幾つかの提言がなされ、役員会で検討課題となっている。この活動は来年度にわたって活動しまとめてゆく予定である。

今年度の主な活動項目の報告は以下の通りです。

■卒業設計コンクール

4月に（一社）埼玉県建築設計管理協会との共催による卒業設計コンクールを事前WEB審査と会場審査を併用して行い、JIA埼玉最優秀賞1名・優秀賞2名を選出しJIA全国大会に推薦した。

■地域会総会の開催

5月12日に会場・ZOOM・書面によるハイブリット方式で行い、各議案全てが承認された。

■建築相談

コロナ禍が継続しており、Zoom による WEB 相談と十分な感染予防対策による面談相談の 2 本立てで行った。WEB 相談も軌道に乗り増加傾向の相談件数をこなしている。件数に対し相談員が不足気味であり負担が増大しており、増員が今後の課題である。

■建築見学会

しばらく中断していた建築見学会を 8 月に行った。埼玉新都心界隈で徒歩圏内の物件を選定した。氷川参道カフェいやしろ・さいたま新都心バスターミナル(木造のターミナル)・造幣局さいたま博物館・プラネットジャパン社屋(竹原義二氏設計)の見学に 8 名の参加を得た。今後とも見学会企画を増やしていく予定である。

■空間ワークショップ

10 月 8 日 9 日の両日地域の子供達を対象に、別所沼公園ヒアシンズハウス前広場にて空間ワークショップを行った。さいたま市文化芸術都市創造活動公募プログラムに認定されたもので、今年のテーマは「しなやかな空間を作ろう」とし、竹材を使用したドーム空間を作るもので、竹林からの竹伐採・竹割機での竹割・組立て用の穴開け加工・長尺材の運搬等長期にわたる大掛かりな準備が必要であった。当日は学生会員@joint のメンバーがスタッフとして参加頂き大いに戦力となりました。参加者・スタッフ共、達成感のあるワークショップとなった。

■定例役員会

毎月第 2 金曜日を開催日として原則 Zoom にて開催した。Zoom では役員の出席率は高い 12 月は地域会のあり方についての討議もあり会場でリアルと Zoom とで行った。やはり時には顔を合わせて話し合う有用性を感じる会議となった。コロナの収束傾向もあり今後はリアルの会議を増やして行きたい。

■Slack の活用

一昨年より取り入れた JIA 埼玉 Slack は活用が広がってきたが、会員相互の更なる活用、学生会員・卒業設計受賞者とを継続的に繋ぐツールとなるような活用法をさらに推し進める必要がある。

4. 茨城地域会 (会長：大山早嗣)

1. 総会の開催

茨城地域会会則第 9 条 2 項により 2022 年 4 月 22 日に茨城地域会総会を催し、2021 年度事業報告及び決算、2022 年度活動計画及び予算についてご承認いただきました。

2. 例会の開催

事業の内容・予算・進捗状況の確認及び会員相互の情報交換・親睦を目的として 11 回の例会を開催しました。7 月の例会では講師を招き「SDGs と建築家の役割、その未来について」を演題にゲストトークを開催しました。10 月には JIA 建築家大会 2022 沖縄へ参加。那覇市にて例会を開催し、地元の建築、まちづ

くり、地域活動等に携わる行政職員の方々と意見交換を行いました。

3. 茨城県消費生活センター建築相談への協力

茨城地域会では毎年茨城県消費生活センターの依頼により相談員を派遣し建築相談に協力しておりますが、本年度も計 12 回の建築相談業務に会員を派遣しました。

4. 北関東甲信越学生課題設計コンクールへの協力

関東甲信越支部の事業として地域会からは会長が審査に参加したほか、実行委員として会員が参加協力しました。今年度は 2023 年 2 月 22 日、23 日に前橋工科大学にて開催されました。

5. 環境セミナーの開催

日本建築学会関東支部茨城支所と共催で、建築と環境に関する話題を広く市民に紹介することを目的に、2022 年 11 月 18 日「環境セミナー」を開催しました。講師に常磐大学・常磐短期大学学長の富田敬子氏を招き、演題「SDGs が変える地球と社会～建築家の責務とは～」を講演いただきました。

6. 建築文化講演会の開催

日本建築学会関東支部茨城支所と共催で、建築文化の創造と発展に貢献することを目的として、2023 年 3 月 3 日「建築文化講演会」を開催しました。講師に JIA の会員でもある益子一彦氏を招き、演題「建築の構成と構造」を講演いただきました。

7. (一社) 茨城県建築士事務所協会主催の茨城建築学生賞への協力

「茨城建築学生賞」は(一社)茨城県建築士事務所協会が建築文化の向上と発展に努め、公共の福祉の増進ひいては地域文化の活性化に寄与することを目指し、県内に建築系学科を有する学校各位と連携のもと、優秀な作品を表彰し、学生諸君にエールを贈ると共に、学生たちの交流を深め、建築設計業界が社会に貢献するための下地作りを目的として開催しております。茨城地域会では 2023 年 2 月 16 日の審査会、2 月 25 日の表彰式へ参加。JIA 茨城地域会賞を設け「茨城建築学生賞」に協力しました。

8. 茨城大学建築都市デザインレビューへの協力

茨城大学都市システム工学専攻/学科では 2018 年 3 月より毎年、卒業制作及び建築設計授業における作品の発表及び合評会を開催しています。茨城地域会では事業協賛するとともに、2023 年 3 月 19 日の学部・大学院設計課題講評会へ参加し「茨城大学建築都市デザインレビュー」に協力しました。

5. 栃木地域会 (代表：武井貴志)

栃木地域会では毎年、県内の大学高専専門学校の建築関係学科卒業制作作品を対象に、栃木クラブ賞として、作品発表と選考会の機会を設けてきました。2023 年 3 月 19 日第 39 回栃木クラブ賞を開催しました。会場は、宇都宮市街地にあるデザイン系専門学校「宇都宮メディアアーツ専門学校」の 1 階ロビー。各校

からの推薦作品 6 作品と学生からの公募作品 3 作品の中から最優秀作品 1 点を選考し表彰しました。例年ですと、公募作品は 2 作品としていましたが、今年度は優秀な作品が揃い、絞りきれずに 3 作品となりました。

毎年このコンクールでは、学生たちの若々しいエネルギーに満ちた作品に触れることができ、審査する側もエネルギーをいただいています。

今年は 3 年ぶりに講演会を同日開催とし、午前午後を通しての開催となりました。講演者は JIA 関東甲信越ブロックの相坂研介氏。氏が建築設計の道を選んだ経緯、卒業後安藤忠雄事務所に進んだ理由、そして今、建築家として目指している「自由度の高いデザイン」について、刺激的なお話を聞かせていただきました。栃木地域会はこのほか、学生を対象に街を歩き解説する「スクール in 栃木」。一般市民や地域会メンバーを対象に「まち歩き建築見学会」を行ってきましたが、やはりコロナで中止となりました。

この数年各分野でリモート環境が急速に整備されました。コロナによる僅かの好転事象ですね、栃木地域会でも早くから月一の例会に ZOOM によるリモート会議を取り入れてきました。対面での飲食の機会も失われてしまったため、例会の後は「建築サロン」と呼ぶメンバー相互の小講演会、と言うか小講演をつまみの飲み会となります。昨年の報告にもあるように、参加の容易さにより、地域会メンバー以外にも呼びかけ参加を募っています。この中から数人の入会者も生まれています。

さらに、今年 1 月 20 日、コロナも下火になってきたため、3 年ぶりのリアル新年会を行いました。地域会メンバーのほか、上記「建築サロン」への参加者もふくめて 10 人が集まりました。

ZOOM でのミーティングは言うまでもなく便利ですので、今後のコロナの状況に関わりなく続けていくことになると思います。同時にコロナ以前に開催してきた「スクール in 栃木」や「まち歩き建築見学会」など、いよいよ来年度から再開できるかと、大いに楽しみにしています。

今のところ期待できそうですね。

6. 群馬地域会 (代表：永井福二)

2022 年度、群馬地域会ではコロナ禍で制限のある中「建築家の果たす役割とは何か。できることは何か」と模索しながら活動を行いました。

9 月 17 日に建築まちあるき西毛タカラサガン「中山道を辿る」坂本宿を開催しました。JR 横川駅から出発し、碓氷関所跡、旧信越線跡のアプトの道を登り、旧丸山変電所を経て峠の湯へ。施設の設計者であり会員の石川純男氏より解説があり。広場にて名物峠の釜飯と力餅を食べその後、中山道の宿場町坂本宿へ。ガイドの中島徳造氏(群馬県立文書館文章調査員、五料の茶屋本陣元当主)より関所や宿場の歴史や時

代背景なども交え解説いただいた。最後に、稼働中では国内最大の製糸工場、碓氷製糸株式会社を見学しました。

11 月 5 日には高崎少林山達磨寺にて第 11 回建築学校を開催。テーマを「ブルーノ・タウトと工芸」とし、一時限は座禅と廣瀬住職の講話。二時限は西上州の竹皮編みについて前島美江氏よりご講演いただきました。三時限は、竹皮編みの花籠を作るワークショップを開催しました。

2 月 22 日には前橋工科大学にて堀部安嗣氏の特別講演会「私のパッシブデザイン」を開催。翌 23 日には第 26 回 JIA 群馬クラブ学生卒業設計コンクールを開催し、堀部安嗣審査委員長と各地域会審査委員により各賞が選出されました。また支部事業である第 17 回 JIA 北関東甲信越課題設計コンクールも同時に開催されました。

7. 山梨地域会 (会長：奥村一利)

山梨地域会の本年度の活動を簡単に報告する。

■「山梨県高校卒業設計コンクール」

参加、審査を行い、賞状とトロフィーの授与を行った。今年は北関東甲信越課題設計コンクールの賞状授与も併せて行った。

■「北関東甲信越課題設計コンクール 2022」

参加。

■行政への働きかけ

○甲州市ワインリゾート計画

甲州市勝沼町岩崎地区住民の方の活動に参加。

■建築展

県立図書館にて会員の作品展と建築相談を行った。

8. 長野地域会 (代表：林 隆)

長野地域会の現在の会員数は正会員 60 名、準会員 1 名 (ジュニア)、法人協力会員 61 社、個人協力会員 3 名です。委員会構成を見直して 6 つの委員会 (総務、広報、交流、事業、表彰、地域環境) とし、正会員と協力会員の全員が委員会に所属して会の運営にも携わっています。昨年 4 月の長野地域会通常総会の際に「すべての会員がそれぞれの立場で、この地域会に所属している意義・価値を感じ取れるような会の運営を目指したい」と思いを伝えました。

具体的には年間を通じて会員参加型の数多くのプログラムを用意することで、会員にとっては興味のあることに対して、時間の都合がつく時に参加できる機会となり、会員間の交流を図りながら居心地の良い場となることをイメージしてきました。しかしまだまだ途上の段階と言えるかもしれません。

公益活動を通じて、地域で活動する私たち建築家のことを、建築家が手掛ける仕事のことを、そして建築の文化としての価値を、広く地域社会の皆様を知っていただけるよう活動してきたこの一年間を振り返ってみます。

(地域会独自の建築賞の創設)

第1回 JIA 長野建築賞 2022 を創設しました。賞の概要としては、応募対象は長野県内に建つ竣工後 5 年以内の建築、審査員はひとりの建築家とし独自の視点によりその年の最も優れた建築を顕彰します。第 1 回目の審査員は内藤廣氏にお願いしました。

59 作品の応募があり、書類審査と現地審査を経て大賞 1 点と入賞 3 点を選出しました。

内藤廣氏の審査講評の最後に、JIA 長野地域会に対して嬉しいお言葉をいただきましたのでその一部を引用します。「この企画を立ち上げた有志と事務局にメールを送りたいと思います。この意思こそが、JIA が保持してきた純度の高い精神の発露なのだ信じます。今後の健闘を祈ります。」

(総務委員会)

委員会を 5 回開催、総務の準備会を多数開催。

会の運営全般を統括し幹事会 5 回と通常総会を開催しました。今年度初の試みとして相談役を囲む会を行い、世代を超えた会員相互の交流を図りました。正副代表会 5 回、法人協力会正副会長会 1 回の運営、そして地域会規則の改訂についても総務委員会が担当しました。

(広報委員会)

委員会を 7 回開催、出版 WG 会議を 16 回開催。

書籍「信州の建築家とつくる家 第 18 集」を発刊しました。1998 年の創刊以来 24 年目となり、今年から新しい編集者をお迎えして第 4 世代へと移行しました。18 集には正会員建築家 32 名と法人協力会員 13 社が参加しました。

ホームページのリニューアルをして、会員に対してそして社会に対しての情報発信を強化しました。これからの事(案内や月間予定がわかるカレンダー機能)と、終わった事(活動の記録)双方のデータ保管場所として位置付けています。

トップページのスライドショーは会員より募集した建築写真を掲載しそれを定期的に更新しています。2016 年より継続していて現在は第 31 期を公開中、作品のストック数は 208 作品に及んでいます。

会報「建築家通信」を今年度も 2 回発行し通算第 127 号になりました。

(交流委員会)

委員会を 1 回開催、そして数多くの催しを企画しました。法人協力会による技術交流会を 4 回開催、計 8 社から最新情報の提供をいただきながら勉強会を行いました。毎年恒例の夏と冬のセミナー。夏のセミナー(勉強会と納涼会)はコロナの影響で延期になり 10 月に復活開催。冬のセミナー(勉強会と忘年会)も同様に中止になりましたが、新年会を開催し会員約 50 名による盛大な会となりました。

仕事を語る会を 1 回開催。2 人の会員建築家の自作を通じての建築論をお聞きしながら意見交換をしました。

(事業委員会)

委員会を 7 回開催。第 17 回建築祭の開催に向けて 1 年間準備をしました。

文化講演会(第 31 回)の講師は平瀬有人氏、演題は「ミリユーからマテリアルへ」でした。

長野県学生卒業設計コンクール(第 32 回)への出展数は大学 12 作品、専門学校 15 作品、高校 16 作品。審査委員長は平瀬有人氏にお願いしました。

(表彰委員会)

委員会を 6 回開催、事務局会議を 4 回開催。建築賞現地審査を 2 日間にわたり行いました。

第 1 回 JIA 長野県建築賞 2022 の運営の他に、建築のコンクール(長野県“信州の木”建築賞、JIA 北関東甲信越学生課題設計コンクール、長野県学生卒業設計コンクール)の審査委員派遣を行いました。

(地域環境委員会)

委員会を 9 回開催。「環境・地域材を考える」勉強会を 3 回開催しました。

1 回目は長野県の環境部から「2050 長野県のゼロカーボンへの取り組み」、建設部から「信州ゼロエネ住宅補助金制度について」オンライン講和をしていただきました。

2 回目は南箕輪村大芝高原のアカマツ林見学会を開催しました。

3 回目は山辺豊彦氏(山辺構造設計事務所)をお招きして「中大規模と住宅の木構造について」ご講演をいただきました。

(事務局)

長野市内に事務局があり、会の運営とすべての委員会活動を支えています。JIA の支部本部や行政との連携の窓口として情報を統括し、会計事務などの重要な役割を担いながら、日々の情報発信にも力を入れています。

会員に対して、会の動きが今どうなっているのかを迅速にお知らせして情報共有することを心がけ、各種会議の議事録、倶楽部ニュース、毎月 1 回の代表日誌、出版メルマガなどの配信をしています。長野地域会ホームページの更新、ブログやInstagram への投稿も事務局が行なっています。

9. 新潟地域会(代表:伊藤純一)

新潟地域会の対外的な公益活動は 3 つの柱からなっています。

一つは実行委員の選択提案でお呼びする建築家を決め実施する建築セミナー、そして学生と JIA メンバーの交流を主たる目的とし、建築を学びはじめ間もない学生生徒達の住宅課題を講評審査する県内学生課題設計コンクール、そして金賞作品が全国卒業設計コンクールにエントリーする権利を得ることができる、県内大学卒業設計コンクールです。

建築セミナーは前々年度企画しコロナ禍の中開催を延期していた仙田満先生のセミナーを 2021 年度事業

の延長として5月に、本年度企画の富永祥子先生の講演会を11月26日(土)に企画実施できました。ウィズコロナに社会が舵を切っている状況下対面のみでのセミナーを企画していましたが、開催直前になり富永先生がコロナの濃厚接触者となり開催が危ぶまれる状況になりましたが、先生のオンライン参加という形で急遽対応し開催する事ができました。当日症状はほぼ無いとはいえ陽性罹患した先生に無理をお願いした事は申し訳なかったと思いますが、「建築の表現」と題した近年富永先生が取り組む漫画等建築の二次元表現の可能性や出版に関してのお話は、来場聴講者に大きな興味と共感をもたらした素晴らしい講演会となりました。

県内学生課題設計コンクールは2月18日(土)に3年ぶりの対面開催で行いました。今年度参加校は大学3校専門学校1校工業高校1校となり総作品数は24作品となりました。久々の対面開催で審査得票を取りまとめる事に手間取りましたが大きな問題は無く、活発な好評審査会となり有意義なコンクールとなったと思います。審査結果を踏まえ各校から2作品翌週実施した支部事業の北関東課題設計コンクールに出品することとなりました。その支部主催の北関東学生課題設計コンクールにおいて、当会金賞受賞しエントリーした新潟工科専門学校の藤田望花さんが北関東でも金賞を受賞したことは新潟地域会としては誇らしい事でもありました。審査会後に地域会メンバーと参加学生とで簡単な交流会を行う事がもう一つの目的ですが、ウィズコロナ禍の中での対面開催が可能になったとはいえ交流会まではまだ実施できませんでした。来年度はそれが可能な従来の姿での開催が可能になることを望んでいます。が、県内大学卒業設計コンクールは3月18日(土)準備し19日(日)審査会を実施しました。今年度の審査会は一般参加者の見学は無しとしたものの従来通り対面式で審査会を行いました。三大学9作品の中から、特別審査員のコンマー級建築士事務所神田篤宏氏佐野もも氏を加えて計5名の審査員により、金銀銅各賞と神田先生佐野先生選抜の審査員特別賞のコンマ賞を選ぶ事となります。1次審査と2次審査の間に神田先生佐野先生からスペシャルレクチャーを受け、このレクチャーはzoomでも配信しました。今回もそれぞれの作品のテーマ視点の独自性や完成度が高く審査は困難で、結果以上の僅差だったと感じています。結果で特筆すべきは金賞を獲った長岡造形大学林くんの作品で「あなたもなれる、ケンチキューバーに」と銘打った建築をひらくためのゲームを考え、それを使ったワークショップで生み出された空間をまとめ表した作品。一般の人が建築空間作りに積極的に関わられる仕組みを考え、新しい建築家設計者のあり方や、建築の新しい世界感を感じさせるものでした。この新潟地域会で金賞を獲った作品が全国大会でどんな評価を受けるかが本当に楽しみです。

対外的な三つの公益活動の他、毎月の月例会時にレクチャーを行っていますが、ベースとなる会員の発表の他、2021年度全国卒業設計コンクールの金賞を当地域会からエントリーした新潟工科大学北澤李緒さんが受賞したことから、北澤さんから改めて受賞報告と審査会の状況をお伝え頂いたことや、新しい試みとして環日本海を拠点とする建築家とのネットワークを考えるレクチャーをはじめました。新潟は関東甲信越支部に所属していますが、北に接する山形は東北支部、西に接する富山は北陸支部と、隣県でありながら接点が少なくネットワークも弱い環境にあります。環日本海という、文化や気候環境に共通する物を持つ支部を超えた地域の建築家を迎えたレクチャーで新たな建築家ネットワークが新潟地域会にもたらすという意味合いを含め、環日本海をテーマにしたレクチャーのシリーズをはじめました。現在までに秋田の建築家1名、山形の建築家4名からレクチャーを受けました。これからも環日本海を切り口に新たなネットワークが生まれるレクチャーを企画開催していく予定です。この様に少しずつ活動もコロナ前同様に戻ってきましたが、このコロナ禍で新たに生まれた考えや環境も大事にしながら活動を続けたいと考え望んでいます。

10. 中野地域会 (代表：白江龍三)

1. 公募されたパブリック・コメント等への意見提出
6月6日、「中野区景観方針(案)」および「中野区都市計画マスタープラン(改定案)」それぞれに関するパブリック・コメントに意見を提出。

3月13日、「旧中野刑務所正門の保存活用についての意見」の公募に応じ、曳家の記録方法や建物公開、資料展示のあり方、書籍出版などにつき意見を提示。

2. 議会各会派との意見交換

8月23日、区議会会派である「立憲民主党・無所属議員団」の政策懇談会に参加。招待があれば会派を問わず、政策懇談会への招待を受け入れ、まちづくり・建築・文化行政に関する意見交換を行ってきた。形は単独招待、テーマは被招待者からで、今回は「行政の各種基本計画書の策定にあたっての議会の対応向上について」「パブリックコメントの形骸化防止について」「施策実施の透明性について」。

3. 哲学堂公園の、国の名勝指定(2020年)に伴う保存活用計画への働き掛け

6月15日〆切で「哲学堂公園保存活用計画検討委員会」の区民委員募集があり、地域会から3名別個に応募(選定外となったが、各人より重要な意見を提示)。12月6日、上記検討委員会あて、「哲学堂公園の保存活用に関する要望書」を提出、庭園全体の高度の復原と、新施設増設の場合は哲学の今日的課題との呼応を求めた。

2月13日と19日の、「名勝哲学堂公園保存計画(案)概要についての説明・意見交換の会」(一般向け)に、

それぞれ地域会会員が参加。

4. 中野駅新北口駅前エリア再整備への働き掛け
12月17日、「中野四丁目新北口地区 及び 囲町地区における都市計画素案」と「中野四丁目新北口駅前地区の拠点施設計画」の一般向け説明会(区から地域会あて招待)に1名参加。

2月6日、中野四丁目新北口地区に係る意見交換会(事務所協会と当地域会、区の所轄と事業施行予定者から野村不動産と日本設計)。区からの資料は上記12月の区民対象の際とほぼ同じ。事前に要請した3D情報は不完全ながら一部、PC画面にて対応あり。

5. 旧豊多摩監獄表門の保存活用への働き掛け
5月20日、区のHPにて「保存活用計画」「基本計画」公表。2021年11月の当地域会からの要望をかなり満たしたものとなっている。

3月13日、「旧中野刑務所正門の保存活用についての意見」の公募に応じ、曳家の記録方法や建物公開、資料展示のあり方、書籍出版などにつき意見を提示。(再掲)

3月18日、「平和の森小学校校舎等整備基本設計(案)の説明会」(一般向け)に1名参加。

3月26日、「正門の移築・修復に係る基本設計(案)の説明会」(一般向け)に2名参加。

6. まちづくり勉強会

11月9日、建築家が主導していないが大変おしゃやかな飲食店街「レンガ坂」(中野駅南口)の商店会会長を講師に招き、まちづくりの工夫や苦勞、楽しさを追体験した。事務所協会と共催。

7. 区民対象の、建築/街並み見学バスツアー
建築士事務所協会と共催の、区民と著名建築等を見学するバスツアーは、コロナ禍での中止を経て3年ぶりに復活、11月22日「鎌倉を巡るバスツアー」として実施。神奈川県近代美術館鎌倉別館、鎌倉文華館鶴岡ミュージアム、国宝館を見学、ミカン狩りで息抜きをした。

8. こども空間ワークショップ

12月13日に落合第一小学校、17日に落合第六小学校で、当地域会による空間ワークショップ開催。この他、支部の空間WSフォーラム主催の授業にも参加。

11. 三多摩地域会 (代表代行：浅野賢一)

本年度の三多摩地域会の活動は下記の通りです。地域会定例会議は月1回のペースで行いました。

1. 地域住民も気楽に参加出来る「市民セミナーバスツアー」を行う為に候補地等の検討を始めました。
2. 地域住民も気楽に参加出来る「市民参加まち歩き」を行うに候補地等の検討を始めました。
3. 三多摩地域会のホームページを作成する為に記載内容等の検討を始めました。
4. 三多摩地区にある優れた建築や会員の設計した建築物を紹介するマップを作成するための資料収集を始めました。

12. 杉並地域会 (代表：石井祐樹)

地域会の設立テーマでもある「地域のまちづくり」を考える事が、地球規模での今日的な議論と続く益々重要な課題となっています。昨年度は「カーボンニュートラル時代の杉並のまちを描く」という年間テーマを基に、脱炭素・循環型社会へ向けた取り組みと地域社会の関わり、課題を学んできました。杉並区でも、施設再編や都市計画道路計画が具体化していくなかで「地域のまちづくり」の課題が顕在化してきています。今後も地域会での活動の知見を生かし、時代に即した事業活動を検討していきます。また、前年度の事業も杉並区、杉並建築会から後援を頂いて進めてまいりました。今後も市民、行政、専門家が協働できる良い関係性を育ててまいります。

1) JIA 杉並土曜学校

年間テーマ「カーボンニュートラル時代の杉並のまちを描く」
「みんなの居場所はだれがつくる?!」—公と民のいい関係とは—
2023年2月4日(土) 15:00~17:30

西荻地域区民センター 第3、4集会室参加者72名
パネリスト : 讃岐 亮(東京都立大学 助教)
パネリスト : 湯浅 かさね(千葉大学 助教)
ゲストスピーカー: 岸本 さとこ(杉並区長)
モデレーター : 林 美樹 (JIA 杉並地域会)
土曜学校の配信

ホームページの刷新に伴い、土曜学校をユーチューブで配信。

これまでは、土曜学校の記録本を発行する事で、活動の報告を図ってきたが、新たな試みとしての挑戦。

2) 新・建築家の本棚

11月12日(土) 文京区・細川庭園開催 参加者23名
本を媒介に、様々な知の体験について語り合うブックイベントとして、今年度は文京地域会と共催。
話し手: 岩崎克也(東海大学教授) / 川口琢磨(建築家) / 瀬野和広(建築家) / 手嶋保(建築家)
コーディネーター: 利光収 (JIA 杉並地域会)
クロストーク座長: 林美樹 (JIA 杉並地域会)

3) 杉並建築会

杉並区において昨年度から開催された、「区長と市民の対話集会」を専門家の立場でファシリテート。市民主体型のまちづくりが進む杉並区で、行政と市民、専門家の協働が杉並区でも実現する。今後も専門家集団として杉並区と協働していく。定例運営委員会

空家相談窓口への専門家派遣他

4) 活動会議

毎月第二木曜日を定例とし、12回の活動。

「4/14、5/12、6/9、7/14、8/18、9/8、10/6、11/14、12/16、1/12、2/9、3/9」

今年度もオンライン開催とし、時間を10:30からとした。今後もオンライン併用とする。

5) 2021年度通常総会

コロナ禍も落ち着き、対面の会を久しぶりに行えた。

6) 杉並区長交代に伴う、新区長との意見交換、懇談
2020年10月に行われた国のカーボンニュートラル
宣言に伴い、JIAでも脱炭素社会に向けた取り組みを
一層加速させてきた。専門家としての新たな知見を
基に杉並区との意見交換、懇談を行った。
尚、杉並区は2050年ゼロカーボン宣言都市である。
7) ドイツ人建築家ユニット「デットライン・アルキ
テクテン」とJIA杉並地域会との交流会
3/24 彼らのプロジェクト「Frizz23」の過程を中心
に地域社会での建築家の意義などを話題に交流。

13. 新宿地域会 (代表：広谷純弘)

本年度の新宿地域会の活動は下記の通りです。

- 地域会発行の新宿区の優れた建築や景観を紹介するマップ「新宿建築100景」を増刷し、新宿歴史博物館とその分館、および区内の図書館や地域センターに設置しました。
- 上記の「新宿建築100景」をもとに、新宿歴史博物館と共催で5月に展示をするための準備を行いました。
- 地域会会員の三栖邦博さんが「新宿建築100景」の建築を、歴史的な出来事や建築様式や潮流をもとに明治から現代までの時間軸に沿ってまとめた年表をもとに、勉強会を行いました。
- JIA新宿地域会・東京都建築士事務所協会新宿支部・東京建築士会新宿支部の3団体でつくる新宿建築設計三会で大規模木造建築物の可能性を探る見学会(流山おおぐろの森小学校・中学校)を行いました。
- 上記の新宿建築設計三会で新宿区に対し下記内容の提案書を提出しました。
 - ・応急危険度判定活動の円滑な協力運営体制の構築について
 - ・新宿区避難所運営検討会(仮称)の設立について
 - ・新宿区内ブロック塀の今後の工事実施への取り組みについて

14. 城東地域会 (代表：小川成洋)

今年は、10月の「建築家大会2022 沖縄」に、城東地域会も積極的に参加することを目指したため、通常の秋の講演会等のイベントは、来年に持ち越しとしました。その代わりとして、沖縄大会に合わせて、ミニイベントとして、“東京水景デザイン・サーベイ 第3回 沖縄探訪”を実施し、その後に報告会を開催しました。普段の関東近辺でのデザイン・サーベイとは異なり、私たちの見慣れた風景や文化と異なる環境は、刺激的で楽しい調査となりました。また3月にも、コロナ禍で延期を続けてきた佐原のまち歩きを、“東京水景デザイン・サーベイ 第4回 水郷：佐原 まちづくり探訪”として開催できました。昨年まではコロナ禍で、Web主体の活動ばかりでしたが、ようやく団体行動で実施するイベントも、開催できるようになりました。

■なりたて建築士のための設計コンペ

その年1月の一級建築士合格者を対象にした提案型コンペ「なりたて建築士のための設計コンペ」ですが、2021年度の一級建築士合格者を対象に、2022年度のイベントとして、“2022年度 なりたて建築士のための設計コンペ《集合住宅》”を、2022年5月に開催しました。

基調講演・審査は、今年度のテーマが集合住宅であったため、「はつせ三田(集合住宅)」で日本建築家協会優秀建築選100選・グッドデザイン賞を受賞された建築家 井原正揮氏に【集合住宅の境界を考える】をテーマに行っていただきました。また、公開審査会では、参加者した出展者にオンラインで発表していただき質疑応答を踏まえ、最優秀賞1点、優秀賞1点、奨励賞2点が決定いたしました。城東地域会のメインイベントに成ったコンペですが、8作品の応募があり、また、当日のzoomプレゼンテーションにも多くの応募者に参加いただき、コンペは盛況のうちに完了できました。難しいテーマでしたが、あらためて住む場所の意味を問うイベントになったのではと思います。

■子供空間ワークショップ

未来を担う子供達が、ものづくり、共同作業、建築空間の楽しさを体験することを目的としたワークショップです。

今年もコロナ禍で開催も危ぶまれましたが、12月に中央地会と連携し、中央区立城東小学校でワークショップを開催出来ました。再開発のより、超高層のオフィスと一体整備された新しい都市型小学校での初めてのイベントとなりました。どこでも変わらない子供たちの夢な姿が、一時コロナ禍を忘れさせてくれました。

■東京水景デザイン・サーベイ

城東地域は、東京の下町であり、山の手に対して水辺空間を軸に都市景観が形成されてきました。高度成長期に失われた水辺空間の復権を提案するために、現在の東京の水景の問題点を探ると共に、地方に残された優れた水辺空間の調査を行い、これらの比較から、城東地域の都市景観への提言を行う事を目的とした取組です。

東京の城東エリアの水辺空間の再整備に向けた提言のために、東京ならびに近郊の優れた水辺の景観調査をおこない、あわせてセミナーやシンポジウムを開催する、2006年から継続する連続企画の継続イベントです。

“東京水景デザイン・サーベイ 第3回 沖縄探訪”
JIA沖縄大会参加を兼ねて、東京水景デザイン・サーベイ：沖縄探訪を実施する。

仲村渠樋川(ナカンドリヒージャー)は、国指定重要文化財で、仲村渠集落の地質学的な地域の特徴である湧水を利用した共同用水施設で、沖縄の伝統的な石造井泉を代表するものです。この仲村渠樋川のよ

うな地域の用水施設や御嶽などの沖縄独特の文化、あるいは聖クララ協会のような沖縄の歴史に関わる建築等を調査し、後日、写真を元にレポートを作成しました。

“東京水景デザイン・サーベイ 第4回 水郷：佐原 まちづくり探訪”

*テーマ：水辺空間を生かしたまちづくり 千葉県佐原を訪ねて

江戸時代より水運を生かし、海産物や米などを江戸へ運ぶ一方で、江戸の文化を取り入れた独自の佐原文化を築きあげた佐原。現在も瓦屋根の伝統的な町並みが、小野川を中心に見られます。その古い家屋を保存しながら、新たに店舗やレストラン、ホテルなどへの改修が進み、新たな観光産業が芽生えています。今回のイベントは、佐原の歴史的町並みを残そうとする市民と行政の活動により、水景を活かしたまちづくりを行った事例“水郷：佐原、”について、“小野川と佐原のまちなみを考える会、” 理事長 佐藤健太良氏よりお話を伺い、その後、佐原の古い町並みを、まち歩きの手法で調査する企画でした。

15. 文京地域会 (代表：堀紳一郎)

文京地域会では建築士会文京支部と連携し[文京建築会]を立ち上げ、連携を図ることで建築・まちづくりに関連した職能の向上を目指すとともに、会員相互の交流と親睦をはかり地域社会に貢献することを目指しています。また会以外の建築人の方々や区民、行政、専門家とも文京区という地域を舞台に共に活動し、交流を深め、様々な活動が行われ現在も展開されています。おもな活動内容について下記にご紹介いたします。

●文京区見どころ・絵はがき大賞

文京区の自然や都市景観、祭りやイベントなど区の魅力を紹介する「絵はがき」を公募し表彰しており、地域の人々とのつながりある活動の場となっています。前年度は新型コロナの影響で開催を見送りましたが、本年度は第11回文京見どころ絵はがき大賞および作品展を開催することができました。次年度も開催の実現にむけて活動をして参ります。

●小石川フォーラム

建築家を目指す若手や学生などの交流の場として小石川フォーラムを立ち上げました。

第3回目の小石川フォーラムは京都を拠点に活躍する建築家、魚谷繁礼氏にご登壇いただきました。京都に赴き魚谷さんの建築にてレクチャーと座談会を行い、オンラインイベントとして会場外の方にもご参加いただきました。

●他地域会との交流

杉並地域会と共催で、本を媒介に、様々な知の体験について語り合うブックイベント、「新・建築家の本棚」を文京区の施設、肥後細川庭園の松聲閣で開催いたしました。

姉妹地域会である京都地域会と毎年、相互の地域を訪れ交流を行って参りました。本年度は京都地域会の魚谷繁礼氏の建築の見学会を行いました。

●文京と区との協定

「建築の専門家が文京区の防災対策、復興まちづくり等を支援するための協定」を区と結び、建築士会文京支部、事務所協会文京支部とともに一体となって協定を結び、現在は区との情報交換会を行っています。

16. 渋谷地域会 (代表：高階澄人)

■事業概要

2022年度は引き続き新型コロナウイルス感染症対策を意識した制限のある地域会運営となりましたが、前年に比べると対面で行う活動も少しずつ増やすことができました。会員・会友がZOOMによるリモート参加、もしくは対面によるリアル参加のいずれかを選択できる「ハイブリッド例会」を継続しました。

4月の通常総会は4月28日にハイブリッド方式で行い、正会員48名のうち出席者数13名、委任状6名、計19名の出席者があり、総会成立となりました。

5月には「渋谷まち歩きトレッキング」を3年ぶりに開催し、大学生10名を含む29名の参加により賑やかに行いました。

地域会活動の主軸となっている「CHIT-CHATTING」は毎年新春特別例会として行っていますが、2022年1月には感染者数が急増したため2回の延期の後、年度をまたぎ7月に開催することができました。飛沫感染などのリスクを考慮し制限の多い中での開催となりましたが、メンバーが集まって対話することの意義を改めて感じることとなりました。2023年1月には例年同様のスタイルで開催することができました。他にも、国立近現代建築資料館や会員作品見学など、多様な活動が復活してきています。

渋谷区と渋谷地域会は長年に渡り良好な関係を維持しています。建築設計やまちづくりに関わる若い設計者やクリエイターの才能を見出し応援するための渋谷区独自のデザインアワード、「渋谷建築賞」(仮称)の設立を長谷部健区長に提言し、渋谷区の後援と地域会の主導により今後進めていくことについて了承をいただきました。

コロナ禍を経て、オンラインの利便性を得ると同時に対面の重要性も強く確信し、さらにはその二つの相乗作用を意識し活用するような変化が地域会にも起きています。会員・会友個人の研鑽の機会、地域会の内外を超える交流親睦、さらにはビジネスチャンスの獲得などを目標に、「人と情報の交差点」として地域会を捉え活動をしています。

■例会開催状況■

4月28日(木)通常総会

学ぶ会／「プロポーザル参加報告」(南條)

5月21日(土)まち歩きトレッキング「代官山〜渋谷」

6月23日(木)学ぶ会／「AIUEO STUDIOの仕事」(佐々木・寺井)

7月28日(木)語る会／「第9回CHIT-CHATTING」
8月25日(火)見学会／国立近現代建築資料館(蔵楽・小池)
9月22日(木)学ぶ会／「渋谷区の仕事」、「AIAについて」(吉本)
10月27日(木)通常例会／「(仮)渋谷の建築賞経緯報告」(牛込)
11月24日(木)見学会／「Connect HARUMI」(牛込)
12月22日(木)学ぶ会／南條「公開コンペを考える」(南條)
1月26日(木)語る会／参加者全員「第10回CHIT-CHATTING2023」
2月23日(木)学ぶ会／「2022年一級建築士試験を紐解いてみる」(古谷)
3月23日(木)2023年度事業計画作戦会議

17. 世田谷地域会 (代表：柿崎豊治)

□区内小学校での空間WS及び空間ワークショップフォーラムへの参加を行った。昨年度に引きつづき新型コロナウイルス禍の状況の中、区内では3校での空間WSが実施された。又、割りばしと輪ゴムを使ったワークショップが1校で実施された。参加児童にはコロナ禍での行事縮小状況の中、記憶に残る体験をプレゼントできたのではないかと思う。

□行政との連携では昨年に引き続き世田谷区建築物安全安心協議会に参加しているが、今年度の協議会は書面での参加となった。

□2019年10月以来の「世田谷区地域風景資産を巡るまち歩きVII」を実施した。このまち歩きは、世田谷区のまちづくり条例による「地域風景資産」を巡り歩き、地域の地理、自然、景観、文化を知ろうとするもので、86か所ある各地域風景資産の活動団体の解説を現地で聞きながら理解を深めようとする企画である。当日はあいにくの雨天開催となったが、多数の参加者があった。地域の風景を守り育てることを通じて、まちづくりへの参画を標榜して活動を続けてきた関連活動団体も、一部では新陳代謝が停滞しメンバー高齢化による課題を抱えて、活動維持の難しさに直面している。今回のまち歩きはこうした課題を感じるまち歩きともなった。

□上記のまち歩きは世田谷建築士会との連携プラットフォーム「世田谷建築会」の主催で実施した。

□区内駒沢公園に面した駒沢1丁目に現存するフランク・ロイド・ライト設計の住宅建築を含む開発計画に関連して、「旧林愛作邸の保存利活用に関する要望書」を世田谷区及び当該事業者に提出した。

この住宅は、ライトの設計で日本国内に現存する4つの建築物の一つであり、帝国ホテル設計依頼の中心にいた人物、林愛作のために設計された住宅である。要望書提出にあたり、行政には区が定めるまちづくり指針に基づいた対応を、事業者へは当該建築資産を活かしたまちづくりへの参画を軸に保存利活用を要望した。

□支部のZOOM会議サイトを利用しての定例会開催を継続した。

18. 千代田地域会 (代表：大橋智子)

今年度は21名の会員で活動を行いました。例会、2回のゲストトーク、学生設計展及びトークセッション、景観WG、メンバーズトークWGなどのミーティングをリモートで行いましたが、コロナが一時沈静化した11月には「海老原商店」を会場にしたゲストトークで、リアルとリモートのハイブリッドを試み、多数の一般参加者があり、久しぶりに地域会会員が集うことができました。以下に2022年度の主な活動内容を報告致します。

■【千代田区を舞台とした学生設計展】

「卒業設計展」としてスタートし、対象を大学の課題設計や大学院修士設計まで広げてきたこの事業は第15回となりました。第13回、第14回に引き続き、レンタルサーバーに作品展示のWEBサイトを開設して、大学院の修士作品1点、学部の卒業設計作品4点、学部の課題設計8点、合計13作品21名の参加を得、各方面にメールで案内を発信し、チラシを配布するとともに、JIA関東支部のホームページから展示サイトへリンクさせ、展示サイトを10月22日から公開しました。11月27日には、出展者の作品説明と作品講評その他の議論を行うトークセッションをZoom会議形式で開催し、「JIA千代田地域会2022学生最優秀作品賞」1点・「同優秀作品賞」12点を選び、表彰状(アクリルフレーム付き)と記念品を送付贈呈しました。

■【メンバーズトーク(ゲストトーク、公開ゲストトーク)】

「公開ゲストトーク」を2回、「ゲストトーク」を1回開催しました。

7/26 第44回：公開ゲストトーク「わが町 神保町と古書店街」

神田神保町の古書店高山本店4代目店主・高山肇氏をお店に訪ね、閉店後の古書店内でお話を伺いました。Zoomで中継配信しました。JIA会員ばかりでなく、地域の方々にも多く参加頂きました。

9/27 第45回：ゲストトーク「新宿地域会の活動と建築について」
JIA新宿地域会代表・広谷純弘氏とZoomで結んで話を伺いました。

11/29 第46回：公開ゲストトーク「看板建築復活の物語」
海老原商店を活かす会・海老原義也氏をゲストに迎え、秋葉原の海老原商店を会場とし、建物の見学会と海老原氏のトークを現地参加者とZOOMでオンライン配信を併用

■【景観調査分析WG】

コロナ禍でまち歩き調査ができなかったため、昨年作成した「千代田区の近代建築リスト」と資料を提供している千代田区環境まちづくり部 景観・都市計画課から、その後の景観重要物件の指定状況等の報告を受け、意見交換をしました。

■【保存、再生】

「東京海上ビルディング」(現東京海上日動ビル)の代替え発表を受けての保存署名運動に、地域会会員

は個人的に応じました。

1月28日に保存問題委員会(委員長:太田会員)の主催で、JIA 建築家クラブで開催された藤岡洋保氏のゲストスピーチ「旧軍人会館の歴史的価値と九段会館の保存改修について」に、地域会会員も参加しました。

19. 中央地域会 (代表:小田恵介)

○ 教育活動 | こども空間ワークショップ

中央区立城東小学校 第13回 空間ワークショップ
(城東、千代田地域会と共催)。

開催日時:2022年12月2日(金)

城東小学校は震災を受けて、先生も生徒達も建物の耐震について関心が高い。ワークショップ前の図工の時間に、家の耐震構造について構造建築士が授業を行っている。2022年は、再開発で漸く竣工した東京ミッドタウン八重洲の新校舎の中で4班に分かれて実施した。今年は6年生約30名で協働して作品を構築した。毎年、各班とも作りながらイメージが膨らみ、短時間で素晴らしい空間構成が出現する。生徒たちは例年通り素晴らしい体験ができた。

校舎は震災復興小学校として1929年建設されたが、既に再開発が決定され、超高層ビルの中に2022年度には再開発ビルが完成し、超高層ビル内に設置される初めての小学校となった。今年9月16日にワークショップを開催予定。

○ 地域交流活動

2012年11月より、JIA 保存問題委員会との協働で、「三原橋センター」の解体に際して各種の意見交換会を重ねた。2015年に解体されたが、資料のアーカイブ化のため資料整理を地域の人と進めている。2019年度は、関連資料の具体的な保存方法を検討する。4月にコアメンバーの大絵晃世氏から収集資料の提供の申し出があり保存先を検討中。

○ 会員交流活動

2016年6月に中央地域会設立10周年を迎え、昨年度は13年目。月例会は会員の事務所視察を兼ねて実施し、2016年は7つ、2017年は8つ、2018年は3つの事務所訪問して、会員の日々の活動の一端に触れ交流を深めた。今年は残念ながら諸般の事情で開催できなかった。オンライン会議を活用して交流をはかりたい。

○ 中央建築三会の立ち上げ

文京、新宿地域会他に倣い、中央建築三会の立ち上げについて、2017夏以来、士会、事協会とも打合せを進めており、2019年3月に士会・中央支部設立総会が開催され、新年度から具体的な活動がスタートしたため、近く、中央建築三会を立ち上げる。同年4月に三会の代表他の役員が集まり、今後の連携の可能性について協議した。中央区からの期待も大きく、三会が緊密に連携しながら、これまで以上に地域に根ざした活動を行う。各会の思惑の違いから具体的な活動には至っていない。

20. 城南地域会 (代表:木村利雄)

2022年度は、新型コロナウイルス禍の残る1年でしたが月例会もリアル(対面)とし、会員による活発な活動のもと休会とすることもなく無事終わることができました。

2年間開催のできなかったフォーラムも多くの方の参加を頂き9月に無事開催することができました。新たな企画も含め、活動内容は下記の通りです。

1. 4月「建築と音楽の集いPart I」-ピアノコンサート(参加人数49人)

「建築と音楽」を通して、大田区地域の方々と楽しい時間を過ごすという企画です。会場は、「久が原クロスクラブ」です。この建物は第2回大田区景観まちづくり賞(2018)景観部門受賞で、建築家山口文象氏設計の築80年を超える旧自邸(1940)になります。天候にも恵まれ素晴らしい中庭でのティータイムも心地よい時間になりました。また、大田区の後援もあり区の職員の方々も参加して頂きました。

2. 5月「親子いきいき笑顔ライブ」への後援
主催は「いきいき未来プロジェクト実行委員会」で、大田区とともに城南地域会も後援しました。子供たちにいきいきと未来へ向かってほしいと立ち上がったプロジェクトで、大田区内の特別支援学校や放課後ディサービス等を利用している子ども達やそのご家族が招待されました。地域会も市民との関わりを大事にしていきたいと思えます。

3. 9月「第11回城南・ふれあいフォーラム」-「みち」と「まち」(Part6)を開催

<大田区と品川区の区界「みちとまち」のかかわり>をテーマに、どのようにして現在の区界ができたのか、そして現状区境はどのような形になっているのかなど、地形からみた「みち・まち」の成り立ちを探りながら、尾根道から谷筋の街の今昔についてトークが行われました。大田・品川両区の職員の方にも現在の区界の管理・境界についてお話を伺うことができ、また参加者の方々からも活発な質問を頂きました。参加者も60名となり大勢の方の関心があったように感じました。

4. 10月 アーバントリップの実施

会員の親睦を図るとともに、会友の方にも参加頂き情報交換の場となっています。

今回は神奈川方面で建物視察を含めた1泊2日の研修旅行になりました。

5. 1月「御料車庫の保存利活用に関する要望書」の提出
JR 大井町駅周辺広町地区の開発に伴って、品川区新庁舎の移転計画があります。

レンガ造りの御料車庫は、対象地域の現庁舎と新庁舎予定地に挟まれる形で残存しています。支部、保存委員会、城南地域会の連盟で1月吉日品川区長当て要望書を提出しました。

実務業務として昨年引続き、大田まちづくり公社

から「大田区公共施設の建築物の（建築基準法第12条第4項（設備）業務）」の委託を受けました。3月には業務報告を終え無事完了することができました。契約等に当たっては支部のご協力も頂き有り難うございました。引続き行政との関係も保ち、活発な地域活動を継続したいと思います。

21. 城北地域会（代表：鈴木和貴）

新型コロナウイルス感染症の感染状況を見守りつつも、対面での会合や街歩きの企画は見合わせ、毎月のリモートによる定例会を重ねた。その中、「地域会誌 KNIT #7」を発行し、会報誌 Bulletin の連載企画「未来へ継承したい風景」への寄稿と城北地域や地域会との関わりのある学校での空間ワークショップの実施を行うことができた。

■地域会誌「KNIT #7」の発行■

特集は『「台地の物語」～地形が織りなす過去と未来～』。地域の継承すべき文化を物語として捉え、歴史や地形が織りなす物語に、地域を知る地域会会員ならではの視点から考察を加えたもの。同誌の最終校正が今年度にかかり、それを終えて5月に発行。以降は地域の建築やまちづくりなどに関わる行政の関連部署や市民の活動団体、図書館などの公共施設などに届けた。直接の手渡しによる贈呈では、特集記事などの紙面から城北地域会の活動や JIA の地域への取り組みなども含めた説明を行った。そのことで、同誌への評価と合わせ地域会への期待などの意見を伺う機会となる。また、地域会会員の旧知の間柄である大学教員を通じて学生への一読を依頼し郵送した。いくつかの学校や研究室からは礼状と合わせ読後の感想や評価もいただいた。

なお、この発行に際しては NPO 法人建築家教育推進機構より活動支援として助成金を受けている。

■「未来へ継承したい風景」への寄稿■

会報誌 Bulletin の連載企画「未来へ継承したい風景」は、年度初めから概ね2023年3月ごろの掲載となるであろうことは想定しており、正式な依頼を受ける前から複数の事例で構成することとし、そこですでに多く地域会会員が関わることを前提として検討を進めた。そのため、まずは事例を持ち寄り、城北地域に共通する景観要素や歴史や地形などの特性をもとに分類し、紙面の制約からその絞り込みを行なっていった。

「城北エリア(KNIT)に広がる多様な風景」と題し、11の事例について寄稿した。記事は JIA Bulletin 2023年春号(vol. 295号)に掲載され、本年3月には会員のもとへ配られた。

見開き2ページの紙面は、持ち寄った情報量とは全く釣り合わない。掲載された事例以外にも多数の情報があり残念ながら見送ったことと、南風舎の八木さんには、丁寧に編集をしてくださったことへの感謝の意をこの報告書に残しておく。

■空間ワークショップの実施■

2017年度から毎年継続している学校1校、新規の学校2校の計3校で実施した。新規のうちの1校は長年実施を希望するも学校側の許可が得られず、ようやく実現できた学校。また、もう1校の学校は城北地域で継続して実施していた学校から異動された先生の新しい赴任先の学校で、異動先が確定する以前から日程は未定としながらも、実施を予約されていたもの。継続開催の学校は例年通りの2月に行うことが年度初めには決まっていたが、新規の2校は学校側の許諾を得るために時間を要したため、実施が決まった時点では実施可能日の空きがなく3月となってしまった。結果、卒業式前の2週間に集中し、ファシリテーターにとっては負担であったものの、他の地域会や建築士会の方々の協力や空間ワークショップ・フォーラムの支援により、成功裡に終わることができた。

3校の合計は、全て6年生で生徒数176人、制作数は18棟であり、ファシリテーターは18名の他、建築系の学生4名の参加であった。また、2校では実施に先立ち事前授業を行い121名が映像を見ながら建築の楽しさや魅力についての授業を受けている。

■付記■

城北地域会の設立に尽力され、地域会の初代の代表（会長）であられた松本哲夫さんが、2023年2月1日に満93歳で逝去された。松本さんは、3期6年地域会の代表をなされた。現在の地域会の活動が自由に開かれた中での闊達な意見交換ができる場となっていることは、草創期の、松本さんの代表の時の、我々会員の意思や行動を尊重して下さったからこそ現在の現在である。謹んでご冥福を祈ります。

22. 港地域会（代表：宮田多津夫）

今年度の港地域会の活動テーマは「公益法人」として「MASを中心にした市民との交流活動」を掲げ実施しました。MAS(Minato Architectural Seminar)は「どなたでも参加できる」開かれたセミナーで2012年に始まり今年で35回目。コロナ禍であったが、リアル開催を1回実施した。港地域会の建築家数人がパネリストとなり、街づくりや建築の過去・現在・未来について、参加された人々の暮らしや環境に対する問題意識と結びつけ、市民と議論する場となっています。特徴は一般市民を対象にしていること。知り合いの人、クライアントやその仲間などを通じて、広く世間の声を聞き、「建築家の意識改革」ができればと考えています。テーマとして『子供の教育について』『住んでいる街の文化や歴史』『コミュニティとなる場づくり』『街に対する愛着』というような素朴な興味や疑問に答えています。一般市民は建築そのものに興味無くても、文化芸術を楽しむように、新たな視点で建築という文化を知るために、知識・教養を高めるキッカケを作るのが目的。市民の声に耳を傾けるこ

とで「建築家の意識改革」も生まれます。また、ホームページを充実させてセミナー記録とアンケートを公表しています。これが MAS の活動内容です。

第 35 回は「失われたことで見えてくるもの」というタイトルで、JIA 沖縄大会 2022 に参加した連・田口さんに村上さんを加えて、沖縄の風土や歴史、祈りの空間、建築の特徴などを題材に、沖縄文化の持つ意味を市民と意見交換しました。沖縄は自然を崇拝し自然とともに暮らす知恵が御嶽や民家に影響しており、市民と素朴な意見交換により新たな沖縄を感じる一日でありました。

毎月の地域会では、会員同士の交流と参加意欲を高めるために、「各自の自己紹介」を実施しています。生い立ちから学生時代、建築家へのきっかけ、現在の活動などを一人 1 時間程度で紹介。普段とは違う面影を感じながら、育った環境や趣味に至るまでを聞き「さすが〇〇さん」と感心しきりの自己紹介。今年入会の新人 2 名も自己紹介していただきました。

1 月 24 日の月例会には、JIA 佐藤新会長をお招きし、JIA に公益活動に関する話を伺いました。「地域の建築家は地味であり依頼者の要望を遂げるサービス業である。社会のためにデザインは三方よしが基本。建築家は世間よしを考えてほしい。困ったときに役に立つ団体にしたい。市民と建築家の関係を改善し、建築家に頼む土壌を作る。」という話を肴に新年会までお付き合い頂きました。

新年度に向けて「市民とともに建築を考える」という新テーマを企画している。昭和建築を守り残すために、市民に紹介していく企画。港区にある建築資産をお借りして、その建築を案内しコンサートやシンポジウムを行う企画である。将来はロンドン OPEN HOUSE のような建築活動を視野に入れている。初めの候補場所として「元国立公衆衛生院」。港区と協賛し区報での PR を行う予定である。

23. 目黒地域会 (代表：伊藤正)

長引くコロナ禍が続く中、予定していた活動をすべて実施するには至らず、活動に参加する会員数も減り、メンバーも固定化しつつあるのが気になるころではあるが、年間を通じて行った、内外に向けた活動を報告します。

●月例会は予定通り 8 月を除き、毎月 Zoom にて開催した。今年度は定例会に合わせ、地域会会員及び協力会員によるミニレクチャを以下の通り実施。『2021 年 JIA 優秀建築選 MAJA HOTEL KYOTO』伊藤 正(2月27日)

『ゴルフ施設の変遷』小林真人 (4月26日)

『海外建材の材料調達専門会社；東京公営の納材事例とトラブル対応事例』(5月31日)

『新しいクリエイティブ・ホテル Update+京都の新しいホテル Update』岡野正人 (6月28日)

●地域会通常総会を Zoom にて開催、会員数 35 名に対して出席者+委任状提出者 13 名にて成立、議案す

べて承認を得る。(5月31日)

●昨年度に目黒区長及び駒場住民が主体となる地域連絡協議会に提案した『ケンネル田圃のボードウォーク計画』を計画地の管理者である東京教育大学附属駒場中学校・高等学校の校長及び当該担当教師と面談の上、計画案の説明と意見のヒアリングを行った。(11月28日)

●『目黒区立美術館及びその他の区民センター施設見学会』実施。この美術館は目黒区が進めている「新たな目黒区民センターの基本計画」の中にも含まれ、解体される予定であるため、現状の視察も兼ねた見学会であった。一般の方、目黒区役所職員、目黒区議会議員、当地域会会員が参加。美術館学芸員の方に説明を受けながら収蔵室から機械室に至る全館を案内してもらった。(12月17日)

●『目黒区美術館の保存活用に関する提言』を、目黒区役所・企画経営部長と資産経営課長と面談の上説明し意見交換を行った。提言書は関東甲信越支部長・渡邊大海、保存問題委員会委員長・太田安則、目黒地域会代表・伊藤正の連名にて用意し、目黒区長・青木英二及び目黒区議会議長に提出。次に区長に直接面談し提言する予定。(3月27日)

●目黒区が主催する目黒区役所建築 4 団体懇親会に参加。危機管理部が新体制になったこと、災害時における応急危険度判定員による避難所安全確認協力員の参集基準の変更などの説明を受けた。(3月20日)

空間ワークショップフォーラム (代表：高田典夫)

空間ワークショップの実施要請がコロナ禍にあるにも関わらず、昨年より増えた。実施を見送った事例もあったが、感染対策をして臨むこととして実施が復活した事例が増えたことと新規に実施した事例が前年より増えたことによる。継続開催している学校などと合わせ、多くの学校やイベントなどでの開催で実施することとなった。特に 10 月以降の集中度合いは激しく、均せば毎週どこかで実施している状況となり、コロナ禍であることを忘れてしまうくらいの活発な活動であった。

空間ワークショップフォーラムに対して実施報告のあった今年度の 32 回の活動を集計すれば、1989 名の児童が制作に参加し、161 棟の作品となった。また、ファシリテーターは延べ 211 人が参加され、77 名の学生がサポートスタッフとして参加している。ファシリテーターは実施地域の地域会会員以外にも他の地域の JIA 会員や東京建築士会会員などの JIA 会員による参加の呼びかけに応じてくれた方からなる。さらに、事前授業として別日に座学として 7 校で空間ワークショップに関連した授業を行い、417 名の児童が受講した。

今年度の 32 回の活動のうち、9 回は初めて実施したものであった。異動された図工専科の教員が新しい赴任先で活動紹介をしてくださり実施することとな

ったもの、今年度になって実施予算が確保できたゆえに実現したものなどが実施への契機の主なものである。また、他校での評判を聞いたり実際に見学をされたりして実施を決定したものの、経験した児童の父兄を介してイベントで実施することになったものなど、経験者を介しての実施の要請があり、毎年増加傾向にある実施要請は今年度も例外ではなかった。加えて、初めて実施する学校などの主催者にとっては、昨年度に作成したリーフレット(ガイドブック)は、この活動を理解してもらう上で有用なものであり、関係者に安心感を与える上で有益であったこともその傾向を推している。

空間ワークショップフォーラムは、地域会に要請のあった空間ワークショップの実施に際しての支援と、実施を担う地域会が無い場合は地域会に代わり主催者側と調整しそれと同時に当該地域の地域会への参加の働きかけを行った。地域会が主体となることは、児童や児童の関係者を通じて、地域に身近な建築家がいることを知って欲しいことにもよる。この活動では、完成した姿(「イエ」)の巧拙に強い意識を抱いてしまいがちであるが、そもそも確固とした正解がある訳ではなく、結果よりもそこへ至るまでのプロセスが重要であると考え、子供達に対してコミュニケーションの大切さと自由な発想の展開に主眼を置いて指導した。それは、そのようなコミュニケーション能力とチームワークの大切さ、そして常に良いと思える解決へ思考を巡らす意識が、将来、子供達にとって、自分たちの街を良くしていくために必要な力と考えるからであり、だからこそ、そこに地域の建築家が参加していることが肝要と考える。今年度の活動は特にこの点を意識しての活動であった。(文責：鈴木和貴)

JIA 北関東甲信越学生課題設計コンクール実行委員会 (委員長：小川峰夫)

このコンクールは、北関東甲信越6県に所在する大学、高専、専門学校、高校の住宅系設計演習の課題作品を対象としたものです。17回目となる今年度は、前橋工科大学において2月22日、23日に開催されました。コロナ禍のため、過去2回はリモート開催、その前は止む無く中止という状況の中で、実行委員である前橋工科大学「えん」の学生から可能ならば会場開催をと切望され、また他の実行委員からも4年振りにコンクールを対面で共有したいという意見が多く、リモート開催の覚悟も持ちながらの会場開催の準備でした。

22日は審査委員長の堀部安嗣氏による特別記念講演「私のパッシブデザイン」を開催しました。美しい映像を交えて氏のパッシブデザインの考え方を分かりやすく講演して頂き、学生のみならずJIAメンバーの心に響いたと思います。23日は公開審査会です。審査は審査委員長に加え、渡邊支部長、各地域会の計

8名で行いました。午前中は併催するJIA群馬クラブ学生卒業設計コンクール、午後より高校の部、大学専門学校部の部の審査を行いました。賞は各部門の金銀銅賞に加え、支部長賞・各地域会賞が授与されました。そして最後に学生が選ぶ「えん特別賞」と堀部審査委員長が選ぶ審査委員長特別賞が授与され表彰式を終了しました。10時から18時までの長丁場でしたが、審査委員長、審査委員、実行委員、学生の方々の頑張りで、スケジュール通りに無事終了することが出来ました。大きな模型の前でのプレゼン、質疑応答、審査は良いものです。「学生の思いが伝わり質疑応答が白熱する、そしてそれを取り巻く聴衆」やはりコンクールはこれではなければと感じ、対面で開催して良かったと心から思いました。4年振りの会場開催で戸惑いもありましたが、最後の実行委員会でしっかり反省し次年度の更なる活性化を目指したいと考えております。

参加校は大学専門学校の部が30作品(12校15学科)、工業高校の部が14作品(7校)でした。高校の部金賞の「継ぐ+土間」はしっかりしたコンセプトと色鉛筆で彩色された美しいスケッチ、平面図によるプレゼンテーションが評価されました。大学専門学校の部金賞の「食祭 ichi 葉」は密集市街地に住居、オープンキッチン、開放的な空間を提案し都市の活性化を目指す作品で、アジアマーケットからインスパイアされた空間と特徴的なスケッチが高く評価されたものです。次年度はさらに素晴らしい作品が参加出来るよう努力を重ねたいと思います。

学生の会@joint (代表：長谷川理奈)

2022年より本格的に活動がスタートしました。

4月にはSNSで情報発信し、新入会員を募るオンライン説明会を行いました。6月には学生向けのセミナー「相席スタジオ」を企画し、初回は西田司氏を招き、メタバースや女子的建築など議論も発展し、充実したオンラインセミナーとなりました。

建築家大会2022沖縄では、シンポジウムで実際のお仕事のお話から建築の新たな視点を広げる事ができました。また全国からのJIA建築家の皆様と交流し、未来の建築や学生の活動について関東甲信支部を超えた繋がりが生まれ、@jointの活動の幅をさらに広げることができました。

地域会主催のワークショップにお手伝いという形で参加し、イベント開催・運営の仕方などを学びました。どちらの企画も子どもを対象としたイベントで、純粹なものづくり・建築の楽しさを子ども達と共に体験しました。

学生合宿は、都内より車で1泊2日、他大学・異学年の仲間と、知識を共有しながら建築を見て回りました。現在は33人のメンバーで活動しています。

・新入会員説明会

日時：2022年4月15日(金)、24日(日)、30日(土)18:00-20:00

場所：zoom (オンライン) 参加人数：24名

- ・学生向けオンラインセミナー「相席スタジオ」

日時：2022年6月26日(日) 18:00~19:00

場所：zoom (オンライン)

講師：西田司 (オンデザインパートナーズ)

参加人数：39名 (JIA会員を含む)

- ・建築家大会 2022 沖縄

日時：2022年10月20日(木) ~10月22日(土)

学生参加人数：5名

- ・埼玉地域会：空間デザインワークショップ

日時：10月8日(土) 9日(日) 10:00~18:30

場所：さいたま市別所沼公園ヒヤシンス前広場

学生参加人数：7名

- ・中野地域会：こども空間ワークショップ

日時：11月12日(土) 10:00~16:00

12月13日(火) 8:30~13:00

12月17日(土) 8:00~13:00

場所：横浜市役所、新宿区立落合第一小学校

落合第六小学校

学生参加人数：8名

- ・学生合宿

日時：2023年3月30日(木) 31日(金)

場所：福島県 (郡山市中心)

「tette 須賀川市市民活動サポートセンター」

／「郡山市立美術館」／「あぶくま洞」／

「アクアマリンふくしま」